

# きべりはむし

第36巻 第1号  
2013



「きべりはむし」編集委員会

委員長 中峰 空  
編集委員 大谷 剛・近藤伸一・杉本 毅・竹田真木生・内藤親彦・三木 進

## 初蝶リレー 2013 とその成果

久保 弘幸<sup>1)</sup>

### (1) 事業の概要

初蝶リレー 2013 は, その春に初めて見られた蝶に関する情報を, こどもとむしの会会員から募り, それを会員間で共有しようとする試みである.

早春の蝶の出現期は, これまで「虫屋」個々の観察記録としては存在したが, 多くの人々が共有する状況にはなかった. これを会員間で共有することによって, 冬から春にかけての気温変化と蝶の出現期の関係を, 多くの人々が体感することができるし, 兵庫県下を中心に近畿地方に在住する会員が観察の網を広げることで, 広汎な情報が得られ, 桜前線のように, 蝶の発生時期が描く「出現前線」を描くことが可能となるかもしれない. さらに, こうした事業を毎年実施することにより, 早春の蝶の出現期がどのように変動するのかという長期的な情報も得られるであろう.

今年度は初めての試みとして, 会員諸氏に呼びかけて目撃情報の収集をおこない, これを週ごとにまとめて「初蝶ニュース」として配信するという方式で実施した.

### (2) 実施方法

「初蝶リレー 2013」は, 2月4日(立春)から4月14日までの期間に, 会員が目撃した蝶の種類, 日時, 場所をEメールによって担当者(久保)宛てに連絡するという方法で実施した. 担当者は寄せられた情報をとりまとめて, 週に1回程度「初蝶ニュース」としてメール配信することとした.

### (3) 成果(別紙一覧表参照)

期間中, 28人の会員から, 21種の蝶に関して累計94件の情報が寄せられたほか, 蛾, トンボ, バッタ類に関する情報も9件寄せられた. これによって「号外」などを含め, 合計12回にわたって「初蝶ニュース」を配信したほか, 会員から情報とともに寄せられた写真を, こどもとむしの会ブログ上に公開できた.

### (4) 問題点と今後の展望

久保が予想したよりも多くの情報が寄せられ, 初めての試みとしては, 一定の成果があった. しかし, 事前に予想していたような「蝶前線」を描くためには, さらに多くの情報を積み重ねる必要があることも明らかになった.

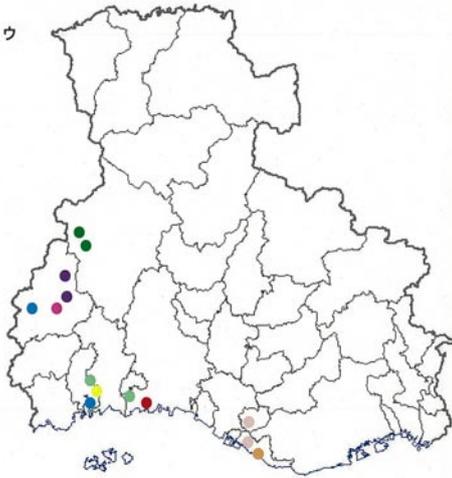
情報収集方法については, 現在のところEメールが最も効果的であることは疑いないが, 今後の実施にあたっては, メール環境にない会員諸氏が参加する途を, 何らかの方法で確保する必要がある.

本事業は, 佐用町昆虫館開館前の, 昆虫出現に対する期待感が高まる時期に行えることから, 参加した会員にとっては, 一定の「やりがい」を感じられる事業にもなると思われる. またそれによって, こどもとむしの会ならびに佐用町昆虫館の運営に対し, 多少ともプラス効果を生むことができるかもしれない. 可能であれば, 会員外の方々(特にこども)にもホームページやマスコミを通じて広く呼びかけることで, その効果はより高まるだろう. また, 佐用町内の小学校等への参加呼びかけなどもおこなえば, 地域とNPOを結ぶ場になるかもしれない.

多くの情報をお寄せ下さった会員の皆様に謝意を表し, 結びとしたい.

<sup>1)</sup> Hiroyuki KUBO 兵庫県明石市 兵庫ウスイロヒョウモンモドキを守る会

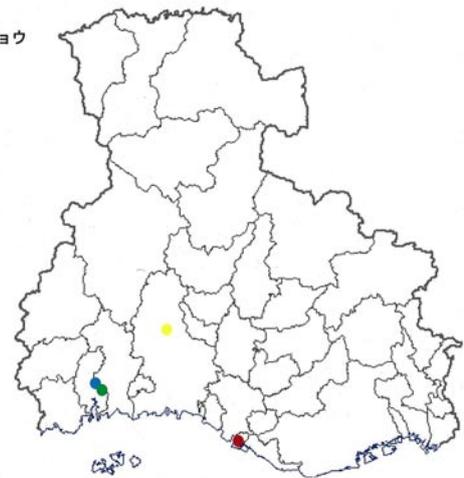
モンシロチョウ



- 2月14日    ● 3月9日    ● 3月19日
- 3月6日    ● 3月12日    ● 3月22日
- 3月7日    ● 3月17日    ● 4月5日

モンシロチョウは、2月14日に姫路市勝原区で初見でした。平年より2週間ほど早いと思われます。その後、少し寒の戻りがあったので、発生が止まったようですが、3月上旬からの暖かさによって、各地域でいっせいに出現しました。但馬地方での発生は遅れ、3月20日を過ぎてもまだ見られなかったようです。

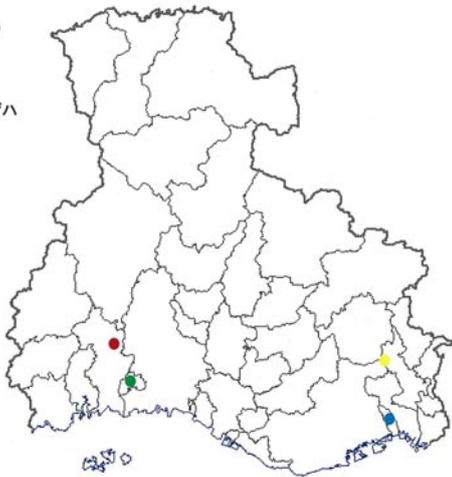
モンキチョウ



- 3月6日    ● 3月7日    ● 3月8日    ● 3月15日

モンキチョウの初見は、モンシロチョウよりかなり遅れて、平年並みかやや早い程度となりました。瀬戸内沿いで発生が始まったのは、モンシロチョウと同じです。奈良県は盆地気候で寒いいためか、初見は3月19日と、2週間近く遅れました。

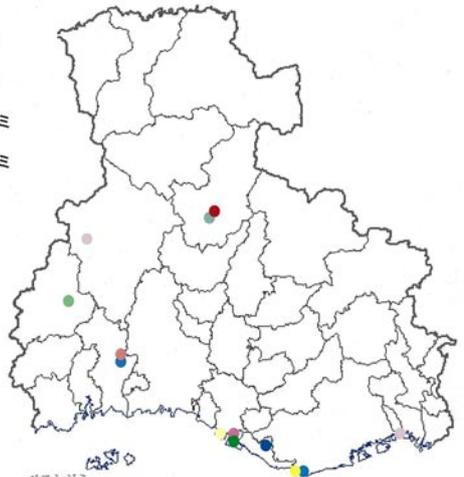
アゲハチョウ  
ギフチョウ  
アオスジアゲハ



- 3月19日 アゲハチョウ
- 3月23日 アゲハチョウ
- 3月31日 ギフチョウ
- 3月23日 アオスジアゲハ

アゲハチョウは、平年は3月末か4月初めにあらわれますが、今年はかなり早く出現しました（大阪市北区梅田では3月7日に目撃）。ギフチョウも、平年は4月上旬の出現ですが、3月31日に目撃されました。たいへん早かったのはアオスジアゲハで、3月23日に目撃されました。平年よりも約1か月早い出現でした。

ベニシジミ  
ルリシジミ  
ヤマトシジミ  
ツバメシジミ



- |         |         |         |         |
|---------|---------|---------|---------|
| ● 3月13日 | ● 3月9日  | ● 3月28日 | ● 4月4日  |
| ● 3月16日 | ● 3月12日 | ● 4月4日  | ● 4月18日 |
| ● 3月20日 | ● 3月16日 | ● 3月20日 |         |

ベニシジミは、平年はモンシロチョウに前後してあらわれますが、今年は遅れて平年なみでした。ルリシジミ・ツバメシジミ・ヤマトシジミの初見も、平年並みかやや早い程度ではないかと思われます。

表1 初蝶リレー 2013 で得られた成果

区分	種名	確認者	確認日	確認場所
初蝶	モンシロチョウ	鐵 英記	2月14日	姫路市勝原区
		河村幸子	3月6日	千葉県柏市酒井根
		野村智範	3月6日	佐用町早瀬
		茂見節子	3月6日	たつの市御津町朝臣
		内藤親彦	3月7日	姫路市網干区損保川河川敷
		前田啓治	3月7日	たつの市龍野町堂本
		清水哲哉	3月9日	たつの市誉田町
		太田慶子	3月10日	千葉県昭和の森
		宮武頼夫	3月12日	奈良県橿原市
		清水哲哉	3月12日	佐用町土井
		飯島昌	3月16日	猪名川町広根
		飯島昌	3月16日	猪名川町槻並
		齋藤泰彦	3月17日	佐用町漆野
		八田康弘	3月17日	佐用町船越
		三木進	3月19日	明石市大久保町八木
		小林慧人	3月19日	京都府京田辺市
		宮武頼夫	3月19日	奈良県橿原市
		三木進	3月22日	稲美町
		三木進	3月22日	明石市金ヶ崎
		清水兼男	4月5日	宍粟市千種町河呂
	清水兼男	4月5日	宍粟市千種町千種・岩野辺	
	モンキチョウ	久保弘幸	3月6日	播磨町大中
		内藤親彦	3月7日	姫路市網干区損保川河川敷
		清水哲哉	3月8日	たつの市誉田町
		小林慧人	3月19日	京都府京田辺市
		宮武頼夫	3月19日	奈良県橿原市
	ツマキチョウ	宮武頼夫	4月5日	奈良県橿原市
	アゲハチョウ	大西蘭子	3月7日	大阪市北区梅田
		清水哲哉	3月19日	たつの市新宮町
		小林慧人	3月23日	京都府京田辺市
		首藤広樹	3月23日	太子町
	宮武頼夫	4月5日	奈良県橿原市	
	キアゲハ	宮武頼夫	4月5日	奈良県橿原市
	アオスジアゲハ	近藤フミ子	3月23日	芦屋市
	ギフチョウ	小林慧人	3月31日	宝塚市武田尾
	ルリシジミ	松岡想	3月13日	明石市大久保町
		飯島昌	3月16日	宝塚市花屋敷
		清水哲哉	3月16日	たつの市新宮町
		小林慧人	3月16日	池田市畑
		清水典子	3月16日	神戸市垂水区
		小林慧人	3月19日	京都府京田辺市
		近藤伸一	3月20日	朝来市
		久保弘幸	4月4日	播磨町大中
		宮武頼夫	4月5日	奈良県橿原市
	ベニシジミ	清水兼男	3月9日	宍粟市千種町
内田隼人		3月9日	芦屋市中央公園	
久保弘幸		3月12日	播磨町大中	
清水哲哉		3月16日	たつの市新宮町	
近藤伸一		3月20日	朝来市	
宮武頼夫		4月4日	奈良県橿原市	
ツバメシジミ	清水哲哉	3月28日	佐用町	
	久保弘幸	4月4日	播磨町大中	
ヤマトシジミ	久保弘幸	4月4日	播磨町大中	
	清水典子	4月18日	神戸市垂水区	
スギタニルリシジミ	近藤伸一	4月5日	養父市大屋町横行	
ミヤマセセリ	梅田悠起	3月31日	川西市国崎	
	近藤伸一	4月5日	養父市大屋町加保	

区分	種名	確認者	確認日	確認場所
越冬組	キチョウ	松下宗嗣	3月6日	大阪府八尾市
		小林慧人	3月7日	池田市畑
		小林慧人	3月8日	池田市細川
		宮武頼夫	3月9日	奈良県橿原市
		太田慶子	3月10日	千葉県昭和の森
		近藤フミ子	3月15日	姫路市夢前町置本
		小林慧人	3月16日	池田市畑
		小林慧人	3月19日	京都府京田辺市
		宮武頼夫	3月19日	奈良県橿原市
		清水哲哉	2月28日	たつの市内
	アカタテハ	小林慧人	3月5日	京都府京田辺市
		宮武頼夫	3月9日	奈良県橿原市
		梅田悠起	3月31日	川西市国崎
	キタテハ	小林慧人	3月5日	京都府京田辺市
		近藤伸一	3月6日	朝来市
		久保弘幸	3月6日	播磨町大中
		小林慧人	3月8日	池田市伏尾
		小林慧人	3月8日	川西市猪名川河川敷
		宮武頼夫	3月9日	奈良県橿原市
		小林慧人	3月19日	京都府京田辺市
宮武頼夫		3月19日	奈良県橿原市	
ルリタテハ	小林慧人	3月5日	京都府京田辺市	
	宮武頼夫	3月9日	奈良県橿原市	
テングチョウ	大塚剛二	3月6日	篠山市藤阪	
	近藤伸一	3月6日	朝来市	
	太田慶子	3月10日	千葉県昭和の森	
	小林慧人	3月16日	池田市畑	
ウラギンシジミ	宮武頼夫	3月19日	奈良県橿原市	
	小林慧人	2月14日	京都市多田	
ムラサキシジミ	宮武頼夫	3月9日	奈良県橿原市	
初蛾	トビモンオオエダシヤク	久保弘幸	3月4日	明石市大久保町
	オオシモフリスズメ	久保弘幸	4月5日	姫路市
	イボタガ	久保弘幸	4月5日	加古川市志方町
	エゾヨツメ	久保弘幸	4月5日	加古川市志方町
	マイコトラガ	久保弘幸	4月5日	加古川市志方町
	オオミズアオ	金子留美子	4月19日	大阪府四條畷市室池
越冬幼虫	アサギマダラ幼虫	近藤伸一		多可町加美区寺内
	ベニシジミ幼虫	久保弘幸	2月1日	播磨町大中
初トンボ	アオモンイトトンボ	片岡義方	3月12日	大阪府豊中市
	シオカラトンボ	片岡義方	3月16日	大阪府豊中市
直翅目	クビキリギス	首藤広樹	3月23日	太子町

## みんなで調べよう セミの初鳴き, 鳴きおさめの日

### — 2013 の記録 —

近藤 伸一<sup>1)</sup>

#### はじめに

今年, こどもとむしの会, 兵庫昆虫同好会の皆さんからたくさんのセミの初鳴き情報や鳴きおさめの情報をお寄せいただきました。皆さんの貴重な情報は記録で残さなければと思い, ここに報告させていただきます。セミの鳴き始めや鳴きおさめの時期を地域ごとに記録に残し, 地域的な時間差や, 経年変化などを調べることで, 気象や環境との関連, 種の分布域の変化などいろいろなことに役立つ可能性を秘めています。

来年は春から本格的に記録したいと思いますので, いつどこで〇〇セミの鳴き声をきいたと会員メール(こどもとむしの会)またはメール等でお知らせいただければ, 本誌に今回のような形で報告させていただきたいと思っています。

本年情報をいただいたのは次の方々です。ありがとうございました。なお記録欄には姓のみ記載させていただきました。

相坂耕作, 足立隆昭, 浅田 卓, 植田義輔, 大塚剛二, 岡本俊治, 金子留美子, 川瀬真次, 木下賢司, 久保弘幸, 斎藤泰彦, 島崎正美, 高橋耕二, 竹田真木生, 竹内隆, 谷角素彦, 内藤親彦, 中峰 空, 八田康弘, 広畑政巳, 三木進, 八木剛, 横山 正, 山本勝也, 吉岡朋子(敬称略)

#### 1. 2013 年の状況

- 兵庫県には 13 種(ニイニイゼミ, エゾゼミ, コエゾゼミ, アカエゾゼミ, クマゼミ, アブラゼミ, ハルゼミ, エゾハルゼミ, ヒメハルゼミ, ヒグラシ, ミンミンゼミ, ツクツクボウシ, チッチゼミ)のセミが分布しています。今年のコエゾゼミ, エゾハルゼミを除く 11 種について記録されました。
- 地域的には兵庫県のほぼ全域と大阪府, 鳥取県の一部。
- 一番早く鳴いたのはハルゼミの 5 月 14 日(赤穂郡上郡町光都 相坂)でした。ただし今年情報収集を始めたのが 6 月だったので, もっと早い時期から鳴き始めているはずです。
- 遅かったのはツクツクボウシ 10 月 14 日(市川町上牛尾半瀬 広畑)とクマゼミの 10 月 14 日(三田市弥生が

丘深田公園 1 個体 八木)でした。

- 昨年と初鳴きの日を比較することができたのはヒグラシ, クマゼミ, ミンミンゼミで, ヒグラシの初鳴きは朝来市で昨年より 10 日早く(近藤), クマゼミは高砂市で 9 日早く(島崎), ミンミンゼミは朝来市で 10 日早かった(近藤)。

#### 2. 種別の初鳴き, 鳴き声確認, 鳴きおさめなどの記録 (2013 年)

種ごとに, 初鳴き, 鳴き声確認, 鳴きおさめと区分しました。

##### (1) ハルゼミ

異常に遅い記録(6 月 29 日)が目目されます。

##### 記録

- 5.14 (赤穂郡上郡町光都 鳴き声確認 相坂)
- 5.18 (美方郡新温泉町浜坂高校近くの海岸マツ林 鳴き声確認 谷角)
- 5.25 (鳥取県岩美町駒馳山 鳴き声確認 谷角)
- 6.29 (豊岡市日高町神鍋 鳴き声確認 植田)

##### (2) ヒメハルゼミ

##### 記録

- 7.10 (南あわじ市諭鶴羽山 多数観察 岡本)

##### (3) ニイニイゼミ

初鳴きは県の西, 東, 北部で 6 月 29 日の同一日に観察され, 7 月 10 日前後がピークの様です。遅い記録は 8 月 19 日でした。

##### 早い記録

- 6.29 (川西市 JR 川西池田駅 初鳴き 齊藤)(川西市 初鳴き 金子留美子)(豊岡市日高町神鍋 鳴き声確認 植田)(赤穂郡上郡町赤松 初鳴き 相坂)(三田市 初鳴き 中峰 空)
- 7.1 (姫路市広畑区熊見 初鳴き 相坂)
- 7.6 (豊岡市 初鳴き 木下)(佐用郡佐用町 昆虫館 鳴き声確認 八木)
- 7.8 (丹波市春日町多田 初鳴き 足立)

<sup>1)</sup> Shinichi KONDO 兵庫県朝来市

7.10 (神戸市灘区神大キャンパス 初鳴き 竹田)(宝塚市平井 初鳴き 斎藤)

7.11 (朝来市立脇 初鳴き 近藤)(姫路市青山 初鳴き 内藤)

7.12 (宝塚市平井 初鳴き 斎藤)

7.13 (吹田市藤白台 初鳴き 高橋)

#### 遅い記録

8.19 (丹波市青垣町沢野 鳴き声確認 浅田)

#### (4) ヒグラシ

初鳴きは6月30日に但馬から始まり, 7月中旬ごろにはほぼ全域に広がりました。鳴きおさめは確認できませんでした。

#### 早い記録

6.30 (朝来市立脇 初鳴き 近藤:参考2012の初鳴きは7.10 近藤)

7.06 (佐用郡佐用町 昆虫館 鳴き声確認 八木)

7.11 (篠山市藤坂 初鳴き 大塚)

7.13 (赤穂郡上郡町赤松 - 赤松の昆虫館 - 初鳴き 相坂)

7.15 (神戸市北区有野台 初鳴き 八田)

7.16 (豊岡市 初鳴き 木下)

7.17 (神戸市西区井吹台 初鳴き 吉岡)

7.18 (豊岡市日高町神鍋 鳴き声確認 木下)

7.30 (宝塚市平井 初鳴き 斎藤)

#### (5) クマゼミ

初鳴きは7月7~8日に県南部地域で一斉に確認され, 北部では約20日遅れの7月下旬でした。鳴きおさめは但馬2か所と高砂市で8月下旬に確認され, 一般的にはこの時期と思われますが, 三田市で10月14日に記録されています。

#### 早い記録

7.06 (宝塚市平井 羽化成虫確認 斎藤)

7.07 (神戸市北区唐櫃台 初鳴き 竹田)(宝塚市平井 初鳴き 斎藤)(明石市 初鳴き 久保)

7.08 (吹田市 初鳴き 高橋)(摂津市 初鳴き 金子)(神戸市西区 井吹台 初鳴き 吉岡)(大阪市西淀川区御幣島 鳴き声確認 斎藤)

7.11 (明石市大久保町西島 初鳴き 三木)

7.13 (姫路市大津区天満 初鳴き 相坂)(赤穂郡上郡町 - 赤松の昆虫館 - 初鳴き 相坂)

7.14 (高砂市松波町 初鳴き 島崎:参考2011年の初鳴き7.20 2012年の初鳴き7.23 島崎)

7.25 (朝来市立脇 初鳴き 近藤)

7.27 (豊岡市弥栄町 初鳴き 木下)

7.29 (摂津市 新鮮な死体確認 金子)

8.08 (佐用郡佐用町昆虫館 鳴き声確認 8月5~7日の間は鳴いていない 八木)

8.17 (豊岡市日高町神鍋 鳴き声確認 植田)

#### 遅い記録

8.28 (朝来市八代 鳴き声確認 近藤)

8.28 (高砂市松波町 鳴きおさめ 島崎)

8.30 (養父市長野 鳴き声確認 近藤)

10.14 (三田市弥生が丘深田公園, 鳴きおさめ 1個体 八木)

10月に入っても伊丹市で鳴いていた(神戸新聞 10月12日 どのようなイイミミ 読者投稿欄より)

#### (6) アブラゼミ

初鳴きは7月11日から南部地域で始まり, 北部では約10日遅れの7月21日に確認されました。鳴きおさめは但馬で8月下旬でした。

#### 早い記録

7.11 (姫路市青山 初鳴き 内藤)

7.12 (宝塚市平井 初鳴き 斎藤)(吹田市 初鳴き 高橋)

7.13 (赤穂郡上郡町赤松の昆虫館 初鳴き 相坂)

7.19 (神戸市西区井吹台 初鳴き 吉岡)

7.21 (朝来市立脇 初鳴き 近藤)(豊岡市 採集 木下)

7.23 (豊岡市弥栄町 初鳴き 木下)

7.26 (豊岡市日高町神鍋 鳴き声確認 植田)(香美町ハチ北高原 鳴き声確認 八木)

#### 遅い記録

8.19 (明石市 鳴きおさめ 久保)

8.28 (朝来市八代 鳴き声確認 近藤)

8.30 (朝来市立脇 鳴きおさめ 近藤)

#### (7) エゾゼミ

#### 記録

7.20 (神戸市灘区六甲山記念碑台 初鳴き 八木)

7.26 (美方郡香美町ハチ北高原 鳴き声確認 八木)

8.17 (豊岡市日高町神鍋 鳴き声確認 植田)

#### (8) アカエゾゼミ

#### 記録

7.26 (美方郡香美町ハチ北高原 鳴き声確認 八木)

#### (9) ミンミンゼミ

初鳴きは7月21日明石市, 7月下旬ごろから県内各地で一斉に確認され, 鳴きおさめは北部, 南部ともに9月下旬~10月上旬ごろでした。

#### 早い記録

7.21 (明石市 初鳴き 久保)

7.26 (美方郡香美町ハチ北高原 鳴き声確認 八木)

7.27 (朝来市立脇 初鳴き 近藤:参考2012の初鳴き8.6 近藤)(赤穂郡上郡町尾長谷 初鳴き 横山)(神戸市西区井吹台 初鳴き 吉岡)

7.29 (吹田市藤白台 初鳴き 高橋)

7.29 (三木市三木山森林公園 初鳴き 川瀬)

8.01 (豊岡市弥栄町初鳴き 木下)(神戸市北区有野台 初鳴き八田)

8.02 (佐用郡佐用町昆虫館 鳴き声確認 斎藤)

8.17 (豊岡市日高町神鍋 鳴き声確認 植田)

**遅い記録**

9.24 (神崎郡市川町上牛尾半瀬 鳴きおさめ 広畑)

9.28 (朝来市立脇 鳴きおさめ 近藤)

9.29 (神戸市中央区 布引ハーブ園周辺 鳴き声確認 竹内)

10.04 (豊岡市日高町 鳴き声確認 久保)

10.06 (佐用郡佐用町昆虫館 鳴き声確認 八田)

10.10 (三木市三木山森林公園 鳴きおさめ 川瀬)

**(10) ツクツクボウシ**

初鳴きは7月23日～27日に但馬地域で確認され、8月上旬から中旬にかけて南部で確認されました。鳴きおさめの時期は県内のセミの中では一番遅く、北部では9月下旬～10月上旬、南部では10月上旬～中旬のようです。

**早い記録**

7.23 (朝来市和田山町 鳴き声確認 近藤)

7.26 (豊岡市日高町神鍋 鳴き声確認 植田)

7.27 (朝来市立脇 初鳴き 近藤)

8.2 (姫路市青山 初鳴き 内藤)

8.6 (三木市三木山森林公園 初鳴き 川瀬)

8.7 (吹田市藤白台 初鳴き 高橋)(神戸市北区有野台 初鳴き 昨年より遅め 八田)

8.9 (加古川市西神吉町 初鳴き 浅田)

8.10 (赤穂郡上郡町赤松昆虫文化館 初鳴き 相坂)

8.11 (佐用郡佐用町昆虫館 鳴き声確認 八田)

8.13 (丹波市青垣町沢野 初鳴き 浅田)

8.18 (神戸市垂水区西舞子 初鳴き 浅田)

**遅い記録**

9.29 (朝来市立脇 鳴きおさめ 近藤)

10.4 (豊岡市日高町 鳴き声確認 久保)

10.6 (佐用郡佐用町昆虫館 鳴き声確認 八田)

10.7 (丹波市青垣町沢野 鳴きおさめ 浅田)

10.10 (神崎郡神河町 峰山高原 鳴き声確認 近藤)

10.12 (三木市三木山森林公園 鳴きおさめ 川瀬)

10.14 (神崎郡市川町上牛尾半瀬 鳴きおさめ 広畑)

**(11) チッチゼミ**

**記録**

8.20 (丹波市青垣町岩屋山 鳴き声確認 八木)

8.21 (三田市弥生が丘深田公園 初鳴き 八木)

**(12) 参考**

**エゾハルゼミ (2012年の記録)**

2012.7.6 (美方郡香美町村岡区耀山 成虫確認 近藤)

2012.7.7 (美方郡香美町村岡区蘇武岳で羽化中の個体確認 近藤)

**3. コメントなど**

- ・宝塚市平井周辺でヒグラシは、一夏に数回しか鳴き声を聞くことが出来ず、ミンミンの鳴き声を聞いたことは、過去30年ない。(斎藤)
- ・神戸市垂水区の自宅付近で羽化不良のセミを4例ほど(クマゼミとアブラゼミ)確認している。過去に記憶がないので、気になる現象である。(浅田)
- ・姫路市白鳥タウンでは例年よりアブラゼミが少なかったような気がする。また、いつもよりかなり早く死骸を見た。ニイニイゼミの声も聴かなかったような気がする。(広畑)

種名	5月	6月	7月	8月	9月	10月
ハルゼミ	■	■				
ヒメハルゼミ			■			
ニイニイゼミ			■	■	■	
ヒグラシ			■	■	■	
クマゼミ			■	■	■	■
アブラゼミ			■	■	■	
エゾゼミ			■	■	■	
アカエゾゼミ			■			
ミンミンゼミ			■	■	■	■
ツクツクボウシ			■	■	■	■
チッチゼミ				■		

図1 兵庫県及びその周辺地域におけるセミの鳴き声の記録 (2013)

- ・ 神崎郡市川町上牛尾ではミンミンゼミは8月に入ってから発生し、お盆のころによく鳴き声を聞く。小さいころクマゼミはいなかったが、十数年前?に声を聴いて、かなり分布が広がっていると思った。しかし、最近はその声を聞いていないと思う。(広畑)
- ・ 豊岡市ではクマゼミは30年ほど前から鳴き声をきくようになった。南部地域と異なり、個体数が少なく、俊敏で、豊岡では非常に採集が困難な種である。(木下)
- ・ 朝来市立脇周辺ではクマゼミが大変少なく、週に1~2回ほどしか鳴き声をきくことができない。(近藤)
- ・ 丹波市青垣町(野生動物研究センター)では、今年クマゼミの鳴く声を1回も聞けなかった。年によっては聞くことがある(浅田)
- ・ 茨木市ではだいたい7月初旬が初鳴きで、まずニイニイが、次いでクマ、そしてアブラという順で鳴き、鳴き声がうるさくなるのは20日過ぎのことが多い。(谷角)
- ・ 鳴きおさめの日の確認は大変難しく、毎日注意していたつもりでも、気が付けば鳴かなくなっていたということになる。朝来市ではミンミンゼミ、ツクツクボウシが9月後半まで鳴いていたが、雨の日の翌日、風の強い日の翌日に一気に鳴き声の範囲、回数が減り、十分注意を払っていないと聞き逃すことになる。(近藤)

## ナミテントウの斑紋タイプ (兵庫県朝来市)

近藤 伸一<sup>1)</sup>

### ナミテントウの採集

朝来市上八代の山際、標高 250m の南西斜面に位置する神社の一角に、越冬のために集まったと思われるナミテントウを 463 個体採集して斑紋の調査を行った。

2013 年 11 月 24 日、午前 11 時ごろ、神社林の一角、陽だまりになった数本のカエデとコンクリート電柱を中心として多数のナミテントウが飛び回っているのに気づき、付近を調査した。数本のカエデの幹と、電柱、標柱に集中してナミテントウが、歩き回っていた。特に電柱に多く、地際から高さ 1.5m の範囲で 50 個体を数えた。11 時から約 1 時の間にナミテントウ 334 個体、カメノコテントウ 2 個体を採集した。この場所は 15 時ごろには山影となり、ナミテントウは見られなくなった。その後は 11 月 30 日、12 月 2 日に追跡調査を行ったが、それぞれ 7 個体、9 個体しか確認できなかった。

2013 年 12 月 5 日、快晴で気温が高かったため(現地の気温 15℃) 同地を再調査した。1 か所で一度に見られる数は 3～4 個体であったが、4 本のカエデと電柱、標柱の狭い範囲で何度も巡回して、12 時から 1 時の間

にナミテントウ 129 頭、カメノコテントウ 1 頭を採集した。この日は飛んでいる個体をほとんど見かけなかったが、動きは活発で、同じ場所で採集し尽くしたと思っても数分後にはどこからか現れた。

この地点の周辺には山際に接して、日がよく当たるカエデ並木があり、ナミテントウも見られたが、その密度は低く、樹木 10 本あたり 3～5 個体程度であった。

### ナミテントウの斑紋タイプ

ナミテントウには、翅の斑紋に遺伝的多型が存在し、下記の 4 タイプに分類されている。斑紋のタイプは、北に行くほど紅型が多く、南に行くほど二紋型が多いとされているが、最近では北でも二紋型の割合が増えており、その原因は地球温暖化ではないかなどと言われている。

採集したナミテントウの斑紋パターンを調べた結果は表のとおりで、二紋型の割合が予想以上に高かった。なお二紋型、四紋型とまだら型の間中型と思われるものが 3 個体あり、1 個体は二紋型(写真 二紋型中間型)2 個体は四紋型(写真 四紋型中間型)にカウントした。

表 観察されたナミテントウの斑紋タイプの個体数とその割合

タイプ	11月24日		12月5日		合計	
	個体数	割合(%)	個体数	割合(%)	個体数	割合(%)
二紋型 (黒地に赤星 2 個)	258	77.2	92	71.3	350	75.6
四紋型 (黒地に赤星 4 個)	35	10.5	18	14	53	11.4
まだら型 (黒地に赤星 5 個以上)	8	2.4	8	6.2	16	3.5
紅型 (赤地に黒星)	33	9.9	11	8.5	44	9.5
合計	334	100	129	100	463	100

<sup>1)</sup> Shinichi KONDO 兵庫県朝来市



写真1 ナミテントウが集まる神社林, 写真右の電柱・標柱と4本のカエデに集中していた.

二紋型



四紋型



まだら型



紅型



## 佐用郡佐用町 船越山域のカミキリ相の解明に向けて (5) 2012・2013年に採集したカミキリムシ

三木 進<sup>1)</sup>

船越山域で2012, 2013の両年に, 新たに9種類のカミキリムシを採集, 確認した. これで, 同山域に分布するカミキリムシは112種となった.

スネケブカヒロコバナカミキリは, 佐用町昆虫館のネムノキの花が開花中で, この花に飛来したと思われる.

「兵庫県版レッドデータブック(昆虫類)2012」では, Cランクになっている. ネムノキを食樹とし, ネムノキやアカメガシワ, リョウブ, ノリウツギなどの花上で採集される. ネムノキは, 低山を中心に県内に広く分布し,

佐用町内には立ち枯れもある. ただし, 翌年, 同じ花をすくっても採れないことがしばしばある. 心材部を食べるため, 利用できる部位が限られているなど, 発生に何らかのメカニズムが働いているように思う.

なお, 前昆虫館長の内海功一氏が, 1983年までに, この地域で採集したカミキリムシ51種のうち, 再確認されていないのは4種となった. ヨツボシカミキリ, スギカミキリ, シラケトラカミキリ, ニセシラホシカミキリ.

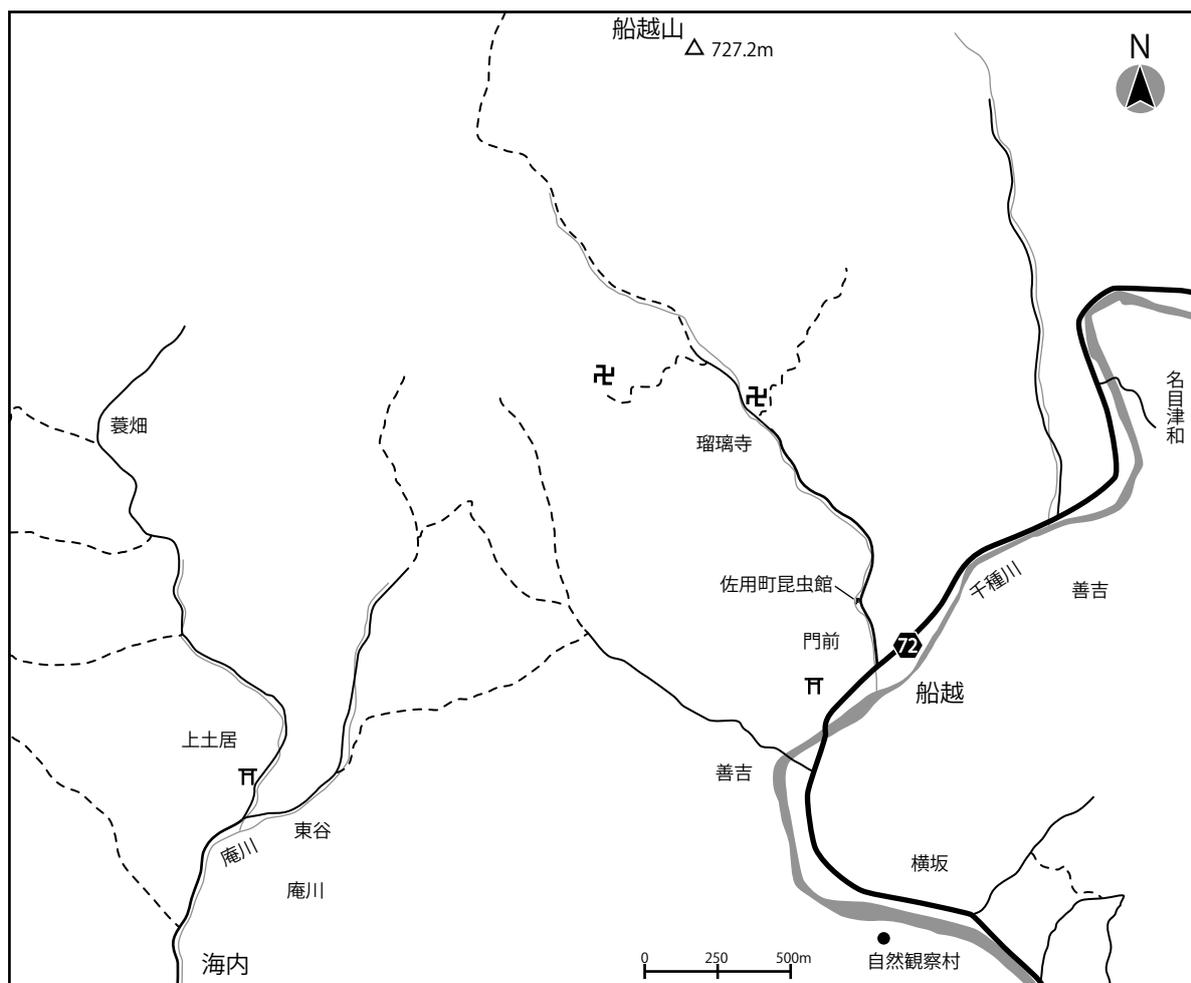


図1 船越山域概念図.

<sup>1)</sup> Susumu MIKI 兵庫県明石市

ヨツボシカミキリは, 1974年の5月に2頭得られている. 全国的に1970年代から, 1980年代前半までは, クリの花やナイターで普通に得られた種だが, 1990年代以降, 急速に姿を消した. シラケトラカミキリは, コナラ, クリ, エノキ等, 食樹の種類も幅広い普通種だが, いまだ採れていない.

#### ハナカミキリ亜科

##### 1. ツヤケシハナカミキリ *Anastrangalia scotodes*

1 ♀, 琉璃寺駐車場・針葉樹伐採木に産卵, 2. VI. 2012. 岡田浩資採集

#### カミキリ亜科

##### 2. トビイロカミキリ *Allotraeus sphaerioninus*

1 ♂ 2 ♀, 琉璃寺参道のツルアジサイ花上, 2. VI. 2012. 岡田浩資採集

##### 3. アメイロカミキリ *Stenodryas clavigera clavigera*

1 ♂, 昆虫館前駐車場のアカメガシワ花上, 17. V. 2013.

##### 4. スネケブカヒロコバネカミキリ *Merionoeda hirsuta*

1 ex, 昆虫館・飛翔中, 20. VII. 2013. 齋藤泰彦採集, 岡田浩資所蔵; 1 ♀, 佐用町林崎・南光スポーツ公園, ひまわり祭りの会場で飛翔中, メタリック系の赤い車に止まったところを採集, 14. VII. 2013.

##### 5. トラフホソバネカミキリ *Thranis variegatus variegatus*

12 ♂ 3 ♀, 2012年早春に昆虫館前のアカメガシワ枯れ木を持ち帰ったところ, 同年5月から順次, 羽脱した.

##### 6. オオアオカミキリ *Chloridolum thaliodes*

1 ♂, 琉璃寺のサワグルミ, 10. VIII. 2013. ; 1 ♀, 長林キャンプ場のオニグルミ, 21. IX. 2012. 清水哲也採集, 三木進所蔵

#### フトカミキリ亜科

##### 7. タテスジゴマフカミキリ *Mesosa senilis*

1 ♀, 2012年8月末に, 琉璃寺のサワグルミの枯れ枝を持ち帰ってところ, 間もなく羽脱した, 9. IX. 2012.

##### 8. シロオビチビカミキリ *Sybra subfasciata subfasciata*

1 ♀, 2012年末に船越山中の広葉樹の枯れ枝を持ち帰ったところ, 翌年, 羽脱した, 27. V. 2013.

##### 9. ニイジマチビカミキリ *Egesina bifasciana bifasciana*

1 ♂, 昆虫館の壁を這っていた. 体長2mm, 22. VI. 2013.

#### 参考文献

- 三木進, 2010. 佐用郡佐用町 船越山域のカミキリ相解明に向けて (1) 内海功一コレクション. きべりはむし, 32(2): 18-19.
- 三木進, 2010. 佐用郡佐用町 船越山域のカミキリ相の解明に向けて (2) 2008, 2009年に採集したカ

ミキリムシ. きべりはむし, 32(2): 20-22.

三木進, 2011. 佐用郡佐用町 船越山域のカミキリ相の解明に向けて (3) 2010年に採集したカミキリムシ. きべりはむし, 33(2): 21-22.

三木進, 2012. 佐用郡佐用町 船越山域のカミキリ相の解明に向けて (4) 2011年に採集したカミキリムシ. きべりはむし, 34(2): 10-11.

## 兵庫県のアトキリゴミムシ類 (1)

森 正人<sup>1)</sup>

### はじめに

アトキリゴミムシ類は樹上に生息する樹林性の種類が多く、一部は草地環境や水辺、林床などにも見られる。採集には主に広葉樹枝葉のビーティングやスィーピングが有効だが、生息環境の掌握や事前の生態情報を踏まえた調査をしないと、ファウナの把握はなかなか難しい。この仲間には、特殊な生態や特別な食性を示す種類が知られており、一部の種では特定のハムシ類やガ類などの幼虫食、あるいはケラの卵食、またアリ類との特殊な関係を示す様な変わった生態情報があるが、ほとんどの種類ではまだまだ情報に乏しい。

兵庫県におけるアトキリゴミムシ類については、古くはベーツ (H. W. Betes) が神戸付近の標本で比較的多くの新種を記載している。その後の記録は断片的なものも多く、県内のファウナは十分に把握されていない。ここでは、兵庫県におけるアトキリゴミムシ群 *Truncatipennes* のこれまでの記録と筆者の手許にある標本記録を整理しておきたい。ここで扱うのはオサムシ科 *Carabidae* に属するクビナガゴミムシ亜科 *Odacanthinae*、ヒラナガゴミムシ亜科 *Ctenodactylinae*、ツブゴミムシ亜科 *Pentagonicinae*、トゲアトキリゴミムシ亜科 *Cyclosominae*、アトキリゴミムシ亜科 *Lebiinae* の一部である。なお、続報の (2) ではアトキリゴミムシ亜科の残りとしてスジバネゴミムシ亜科 *Zuphinae*、ホソゴミムシ亜科 *Dryptinae*、およびホソクビゴミムシ科 *Brachinidae* の記録の整理を予定している。なお、上位分類 (亜科、族など) については研究者によって扱いが異なるが、ここでは大倉 (1985) に準拠し、学名は LÖBL・SMETANA (2003) に従った。

掲載記録は種ごとに文献記録と標本記録に分け、文献記録については記載された記録地名と出典情報を明記した。地名は原則的に文献記載の地名そのままを転用し、重要と思われるものについては採集データや採集者等の詳細内容も加えた。標本記録については、筆者の手許にある標本のなかから、原則 1 産地 1 例とし、採集頭数・採集地・採集データを明記した。採集者については、筆者以外のものは採集者を明記し、筆者採集のものはこれ

を省略した。生息環境や生態情報、全国分布、基産地などについても知り得た範囲で記述した。

### 各種解説

#### 1. フタモンクビナガゴミムシ *Archicolliuris bimaculata nipponica* Habu, 1963

【文献記録】篠山町 (岸田剛二ほか: 1975), 出石町ほか (高橋匡: 1982), 神河町砥峰高原 (八木剛ほか: 2003), 多可郡中町 (松尾隆人: 2003), 三田市 Oiso, 川西市笹部, 川西市大和 (初宿成彦: 2012).

【標本記録】2exs, 八鹿町円山川, 23-V-2011; 1ex, 上郡町安室ダム, 25-IV-1999; 6exs, 赤穂市千種川, 9-XII-2000; 14exs, 三木市美嚢川, 2-IV-2000; 3exs, 小野市加古川, 2-X-2011; 2exs, 神戸市道場 (武庫川), 5-X-1997.

日本では本州・四国・九州に分布。兵庫県では比較的大きな河川を主体に、時折ダム湖や池沼周辺で見られることがある。生息地数も多くまた一般的に個体数も多い。典型的な「河川性種」で、植物体の根際や茎葉上に登って活動する個体も多く観察される。灯火にも飛来し、冬季は河川周辺の植物根際や土中などで越冬個体が見られ、時に集団越冬となる。土生 (1958) は本種が稲の葉上のウンカを攻撃してよく食べることを報告している。クロオビクビナガゴミムシは異名。本種と次種はクビナガゴミムシ亜科に属している。

#### 2. チャバネクビナガゴミムシ *Odacantha (Heliocasonia) aegrota* (Bates, 1883)

【文献記録】明石市明石松江海岸, 明石川河口, 神戸市舞子浜 (河上ほか: 2000), 赤穂市千種川河口, 姫路市市川河口, 加古川市加古川河口, 明石市明石川, 神戸市魚崎, 神戸市舞子ヶ浜 (初宿成彦: 2012).

【標本記録】1ex, 豊岡市神鍋高原, 20-VIII-2012; 2exs, 豊岡市岩井, 12-X-2011; 5exs, 香美町ハチ北高原, 21-VIII-2012; 3exs, 城崎町桃島池, 8-VII-1998; 6exs, 八鹿町円山川, 23-V-2011; 2exs, 柏原市柏原川, 5-VIII-2011; 4exs, 篠山市弁天橋, 27-III-2010; 2exs, 青垣町佐治川,

<sup>1)</sup> Masato MORI 環境科学大阪 株式会社

10-VIII-1995; 2exs, 稲美町, 4-IV-1999; 2exs, 赤穂市北野千種川, 4-VII-2011; 9exs, 御津町揖保川, 7-VII-2003; 1ex, 三田市羽束川, 6-X-2000; 7exs, 神戸市藍那, 9-VIII-2002.

新潟, 東京が原産で, 北海道(奥尻島), 本州, 四国, 九州に広く分布. 文献記録では南部に偏っているが, 県内広域に分布し, また個体数も多い. 主に池沼など水辺周辺に生息し, ヨシやガマ類など抽水植物の植物体や根際などで多く見られ, また灯火にも飛来する. ハネアカクビナガゴミムシは異名.

なお, 本種によく似たブロンズクビナガゴミムシ *O. metallica*, またはその近縁種が九州各地や山口・広島・岡山県など中国地方各地から記録・報告されているが, 県内では今のところ見つかっておらず, 同好者の注意をお願いしたい. これは, 色彩・形態がチャバネクビナガによく似ているが, 上翅はやや金属光沢を帯びやや長型, ♂の交尾器では明瞭に区別が出来る(西田, 2000を参照). また, このほか, 本亜科ではナガサキクビナガゴミムシ *Eucolliuris litura* が広島県から記録されている. この種は九州に産地が多い南方系の種類で, 筆者は紀伊半島においてススキの大きな株根際から数多く採集した経験があり, 兵庫県内でも同様の環境に生息の可能性があると考えている. さらに, 北方系のナカグロキバネクビナガゴミムシ *O. puziloi* も分布可能性がある. より細型で体が軟弱な感じがするもので, 滋賀県あたりまでの記録がある. とともに注意をお願いしたい.

### 3. クロモンヒラナガゴミムシ *Hexagonia insignis* (Bates, 1912)

【文献記録】神戸市藍那, 宝塚市山本南(森正人: 2012).

【標本記録】1♀, 神戸市藍那, 21-VI-2002, 熊代直生採集; 2♂3♀, 神戸市藍那, 10-X-2011.

なかなか素敵なゴミムシで, 森(2012)が兵庫県内での初記録や生態情報などを本誌に報告したが, それ以降の調査では新たな県内の産地情報は得られていない. 近畿地方では, 京都市の宇治川河川敷のヨシ原で新たに確認でき, 産地情報は少しずつ増えている. 日本では本州・四国・九州に分布. 原産地は熊本県湯山, 人吉. 本種はヒラナガゴミムシ亜科に属している.

### 4. ダイミョウツブゴミムシ *Pentagonica daimiella* Bates, 1892

【文献記録】篠山町雨石山(林靖彦ほか: 1995).

【標本記録】1ex, 神河町砥峰高原, 28-VI-2009; 1ex, 神戸市道場, 18-VI-1994.

長崎原産で, 日本では北海道・本州・四国・九州・南西諸島に広く分布するが, 兵庫県内の記録は意外と少ない. 本属の種類は一般的に落葉下など林内土壌で得られることが多く, ビーチングなどでは得にくい. 本種

は, 灯火に飛来することも多く, またガマズミなどの花で得られた例もある. 本種以下3種はツブゴミムシ亜科に属している.

### 5. カドツブゴミムシ *Pentagonica angulosa* Bates, 1883

【文献記録】篠山町雨石山(林靖彦ほか: 1995), 出石町ほか(高橋匡: 1982), 神河町砥峰高原(八木剛ほか: 2003), 佐用町船越(藤江隼平ほか: 2011), 三田市Oiso, 川西市菅部, 川西市大和, 神戸市摩耶(初宿成彦: 2012).

【標本記録】1ex, 波賀町掘, 1-VIII-1995; 1♂, 神河町砥峰高原, 13-IX-2009; 1♀, 神戸市藍那, 10-X-2011.

北海道・本州・四国・九州・南西諸島に広く分布する. 原産地は湯山(熊本), 柏木(奈良), 日光. 兵庫県内の記録は少ない. 全国的には広葉樹のピーチングで得られた記録, 森林内の朽ち木下で得られた例, 古い獣の死体の下から得られた記録, キノコにきていた例などが報告されている.

### 6. クロツブゴミムシ *Pentagonica subcordicollis* Bates, 1873

【文献記録】篠山町雨石山(林靖彦ほか: 1995).

【標本記録】1ex, 三木市シビレ山, 9-VIII-2003; 1♂, 新宮町角亀峠, 25-IV-1999.

北海道・本州・四国・九州・南西諸島に分布. 原産地は長崎. 本種の記録も少なく, 他府県では灯火で得られた記録や, 冬季に落葉下から得られた採集例などが報告されている. 本種は前種に似ているが, 前胸背に微細印刻がなく, 光沢が強いことで区別できる.

### 7. トゲアトキリゴミムシ *Aepheids adelioides* (MacLeay, 1825)

【文献記録】氷上郡(岸田剛二ほか: 1975), 洲本市安乎町ほか(高橋寿郎: 1998), 柏原町(吉武啓ほか: 2011), 神戸市舞子浜, 神戸市須磨浦(河上ほか: 2000), 神戸市本山, 神戸市須磨浦, 神戸市舞子ヶ浜, 西宮市甲子園浜(初宿成彦: 2012).

【標本記録】1ex, 神戸市道場, 27-VI-2004; 5exs, 御津町揖保川, 7-VII-2003; 1ex, 西宮市すみれ台, 20-V-2006; 3exs, 姫路市広畑夢前川, 16-X-2010.

本州・四国・九州・南西諸島に分布. 原産地はJava. 兵庫県内には広く分布している. 河川敷や畑地, 荒地などやや乾燥した環境で得られることが多く, 灯火にも飛来する. 成虫で土中越冬をする. 本種はアトキリゴミムシ類らしくない色彩と体型で, ある種のマルガタゴミムシ類やゴモクムシ類に似ているが, 脛節には頑丈な複数のトゲを具えるなどの変わった特徴がある. トゲアトキリゴミムシ亜科に属している.

8. *ダイミョウウトキリゴミムシ Cymindis (Menas) daimio*  
Bates, 1873

【文献記録】猪名川 (福貴正三: 1935).

【標本記録】1ex, 南淡町吹上浜, 14-X-2001.

北海道では個体数が多く, 原野の側溝などで多く拾うことができるが, 近畿地方では個体数が少ない. 乾燥地を好む種類で, 鳥取砂丘の砂地環境で比較的多くの個体を見たことがある. 県内では淡路島南端吹上浜の倒木下の砂地でようやく採集することができた. 淀川 (大阪) では河川堤防付近で採集したことがあり, このようなやや乾燥した環境を意識して捜せば, 今後記録が増えるかも知れない. 長崎が原産で北海道・本州・四国・九州に分布. 灯火にも飛来する. *ダイミョウゴミムシ* は異名. 本種以下 30 番まではアトキリゴミムシ亜科に属している.

9. *コキノコゴミムシ Coptodera (Coptoderina) japonica*  
Bates, 1883

【文献記録】川西市一庫, 川西市笹部, 宝塚市滝ヶ平, 猪名川町三草山 (初宿成彦: 2012).

【標本記録】1♂ 2♀, 宍粟市赤西溪谷, 16-VII-2011; 1♀, 宍粟市音水溪谷, 20-IX-2008; 1♂, 吉川町, 16-V-1994; 2exs, 神戸市藍那, 9-VIII-2002.

九州原産, 本州・四国・九州に分布する. 県内の記録は多くない. ヒラタケ類などがたくさん生えた衰弱木や立枯れ木で見られることが多く, *Episcapha* 属のオオキノコムシなどと同居している. 昼間の動きは極めて敏捷で捕まえるのに大変苦労する. 活動時間帯は主に夜中で, 樹液が出ている樹幹で見られることも多い. 冬季にケヤキ樹皮下で越冬個体が得られた例がある.

10. *ヒメキノコゴミムシ Coptodera (Coptoderina) osakana*  
(Nakane, Ohkura et Ueno, 1955)

【文献記録】氷上郡 (岸田剛二ほか: 1975), 川西市笹部 (初宿成彦: 2012).

原産地は大阪と京都で, 本州・九州に分布する. 県内の記録はさらに少なく, 筆者は未採集. 前種と同様の環境に見られ, 混生している場合もある. ケヤキ樹皮下で越冬個体が得られた記録がある. 前種とやや似ているが, 本種の方が前胸背の幅が広く, 黄褐色の側縁部が広く上反すること, ♂交尾器中央片先端部が円い (前種では尖る) ことなどで区別できる. 斑紋は両種とも変異するので注意が必要.

11. *ハギキノコゴミムシ Coptodera (Coptoderina) subapicalis*  
Putzeys, 1877

【文献記録】篠山町 (岸田剛二ほか: 1975), 篠山町雨石山 (林靖彦ほか: 1995), 氷ノ山ほか (高橋匡: 1982), 神戸市六甲山 (八

木剛ほか: 2002), 加美町鳥羽 (兵庫昆: 2001), 川西市黒川, 猪名川町上阿古谷, 猪名川町木間生, 上籠坊, 篠山町 (初宿成彦: 2012).

【標本記録】2exs, 豊岡市新堂, 18-V-2011; 2exs, 宍粟市赤西溪谷, 16-VII-2011; 1♀, 宍粟市音水溪谷, 20-IX-2008; 1♂, 神河町砥峰高原, 13-IX-2009; 1ex, 三田市小柿, 30-VII-2005; 1♀, 神戸市藍那, 10-X-2011.

北海道・本州・四国・九州・南西諸島に広く分布する. 県内にも広く分布し個体数も多い. 倒木や朽木, 立枯木, 衰弱木など広汎な植物体で見られる. ふつうは上翅後半部に波形斑紋があるが, ときに斑紋が消失したり, 前紋が表れるなど斑紋変異があり, マダラキノコゴミムシ *Coptodera eluta* (県内では未確認) と紛らわしい個体もある. マダラキノコとは翅端の形状 (本種は丸いが, マダラキノコでは鋭角となる) で区別ができる.

12. *キノコゴミムシ Lioptera erotyloides* Bates, 1883

【文献記録】篠山町雨石山 (林靖彦ほか: 1995), 扇ノ山ほか (高橋匡: 1982), 神戸市藍那 (徳平拓郎ほか: 2010).

【標本記録】4exs, 神戸市藍那, 9-VIII-2002; 2exs, 神戸市道場, 12-VIII-2007.

北海道・本州・四国・九州に分布, 原産地は湯山 (熊本), Junsai (北海道?). 県内では広く分布するが, 記録は多くない. コキノコゴミムシやヒメキノコゴミムシと同様の環境に見られるが, 一般にはより少ない. 冬季に乾燥したガケから掘り出された記録や, 樹幹の窪みに潜んでいた例がある. 以前はオオキノコゴミムシと呼ばれ, かなり珍重されたが, 最近は何故か目に触れる機会が多くなったように思える.

13. *コヨツボシアトキリゴミムシ Dolichoctis striatus striatus* Schmidt-Goebel, 1846

【文献記録】篠山町雨石山 (林靖彦ほか: 1995), 多可郡中町 (松尾隆人: 2003), 加美町鳥羽, 加美町三谷 (兵庫昆: 2001), 川西市笹部, 川西市多田院, 猪名川町木間生, 宝塚市滝ノ平 (初宿成彦: 2012).

【標本記録】2exs, 宍粟市赤西, 6-VI-2010; 2♂, 神河町砥峰高原, 13-IX-2009; 2exs, 相生市三濃山, 21-II-2011; 1ex, 吉川町, 16-V-1994; 1ex, 神戸市谷上, 24-VI-1992; 1ex, 神戸市道場, 5-V-2004; 7exs, 神戸市藍那, 9-VIII-2002.

本州・四国・九州・南西諸島に分布, 原産地は Burma. 県内には広く分布し個体数も多い. 各種の倒木や朽木, 立枯木, 衰弱木, 粗朶など広汎な植物体に見られる. 南方系の種類である.

14. ヤセアトキリゴミムシ *Mochtherus luctuosus* (Putzeys, 1875)

【文献記録】篠山町雨石山 (林靖彦ほか: 1995), 氷ノ山 (高橋匡: 1982), 加美町鳥羽 (兵庫昆: 2001), 川西市笹部, 川西市大和, 川西市芋生, 川西市東畦野, 猪名川町内馬場, 宝塚市滝ノ平, 篠山町浜谷 (初宿成彦: 2012).

【標本記録】2exs, 宍粟市赤西, 4-V-2011; 2exs, 篠山市鐔市, 25-X-1997; 3♂, 篠山市後川新田 500m, 15-IV-2012; 1ex, 吉川町, 16-V-1994; 2exs, 神戸市道場, 18-IX-2002; 5exs, 神戸市藍那, 18-IX-2002.

本州・四国・九州に分布。県内には広く分布し個体数も多い。各種の倒木や朽木, 立枯木, 衰弱木, 粗朶など広汎な植物体に見られ, シイの古木樹皮下で越冬個体が得られた例がある。

15. キボシアトキリゴミムシ *Anomotarus stigmula* (Chaudoir, 1852)

【文献記録】豊岡市弥栄町 (高橋匡: 1982), 神戸市須磨区 (HP)

本州・四国・九州・南西諸島に分布, 原産地は北インド。県内の記録は少ない。主に森林内の落葉下などに生息しており, また小型種のため発見が難しい。落ち葉や林床土壌のシフティングで得られることが多い。

16. アオアトキリゴミムシ *Calleida (Callidiola) onoha* (Bates, 1873)

【文献記録】Hiogo (Bates: 1873), 氷上郡 (岸田剛二ほか: 1975), 篠山町雨石山 (林靖彦ほか: 1995), 甲東園, 川西市笹部, 猪名川町槻並, 宝塚市滝ノ平 (初宿成彦: 2012).

【標本記録】1ex, 城崎町来日岳, 7-VII-1997; 2♂, 篠山市後川新田 500m, 15-IV-2012; 1ex, 宝塚市佐曾利, 9-VII-1994.

北海道・本州・四国・九州に分布, 原産地は兵庫。県内には広く分布するが, 一般にはそれほど多くない。各種の広葉樹の枝葉上などに見られ, クリの花から採集された記録もある。冬季はケヤキやアカガシなどの樹皮下で成虫態で越冬する。幼虫も記載されている。

17. キガシラアオアトキリゴミムシ *Calleida (Callidiola) lepida* Redtenbacher, 1868

【文献記録】篠山町 (岸田剛二ほか: 1975), 洲本市安乎町 (堀田久: 1959), 洲本市猪鼻ダムほか (高橋寿郎: 1998), 氷ノ山ほか (高橋匡: 1982), 川西市笹部, 加古川 (初宿成彦: 2012).

【標本記録】2exs, 加西市西剣坂町, 22-VI-2010; 1ex, 神戸市淡河, 11-VIII-1992; 1ex, 神戸市藍那, 10-X-2011.

本州・四国・九州に分布, 原産地は China, Hongkong。県内には広く分布し, 各種広葉樹や高茎草本の枝葉上に見られることが多い。灯火にも飛来し, 冬季はガケなどに潜って越冬する。大変きれいな種類で, 初めて採集した時には感激した憶えがある。

18. メダカアトキリゴミムシ *Orionella lewisii* (Bates, 1873)

【文献記録】多可郡中町 (松尾隆人: 2009), 神戸市須磨一ノ谷, 川西市笹部, 川西市大和, 猪名川町槻並 (初宿成彦: 2012).

【標本記録】1ex, 三田市木器, 3-VI-1990.

北海道・本州・四国・九州・南西諸島に分布, 原産地は長崎。県内の記録は少ない。各種広葉樹の枝葉上で見られるが, 粗朶で得られることが多い。

19. アリスアトキリゴミムシ *Lachnoderma asperum* Bates, 1883

【文献記録】Kammaki (初宿成彦: 2012).

本州と九州に分布, 原産地は箱根山。Bates は記載論文のなかで, アリの巣の中で死骸が見つかったと記述しており, これが和名の元とされているが, アリとの関係は長い間疑問視されていた。しかし, 比較的最近になってアリと関わる観察事例や採集記録が複数報告されており (例えば, 森: 1997, 豊田: 2000a, 2000b, 森: 2006), カワラケアリやトビイロケアリと密接に関係していることが確実となっている。森 (2006) によると, 新成虫の発生は晩秋で, 初冬でも活動する個体が観察されている。大阪市内の淀川河川敷や, 京都市の宇治川では多く見つかるが, 県内ではなかなか発見できない。

20. コアオアトキリゴミムシ *Taiconia aurata* Bates, 1873

【文献記録】神戸市六甲 (初宿成彦: 2012).

本州・四国・九州に分布, 長崎原産。九州本土では比較的多く見られるが, 東に行くほど少なくなり近畿地方以东ではほとんど見られなくなる。広葉樹などの樹上や草本上に生息しており, スギの樹皮下で越冬中の個体が確認されている。

21. ヤホシゴミムシ *Lebidia octoguttata* Morawitz, 1862

【文献記録】篠山町 (岸田剛二ほか: 1975), 宝塚市 (新家勝: 1988), 三原郡論鶴羽山ほか (高橋寿郎: 1998), 家島本島 (上田尚志: 1981), 扇ノ山ほか (高橋匡: 1982), 神戸市六甲山 (八木剛ほか: 2002), 神河町砥峰高原 (八木剛ほか: 2003), 加美町千ヶ峰 (兵庫昆: 2001), 神戸市六甲, 西宮市畑山, 芦屋市奥池, 宝塚, 川西市笹部, 猪名川町内馬場, 西宮市塩瀬, 雪彦山, 青垣町粟鹿山, 佐用町大撫山, 波賀町音水 (初宿成彦: 2012). )

【標本記録】1ex, 養父市氷ノ山スキー場, 14-VI-2008; 1ex, 加西市青野ヶ原, 18-XI-1995; 2exs, 三田市大船山, 14-XII-2003; 9exs, 神戸市道場, 13-I-2007; 10exs, 神戸市太山寺, 25-III-2007.

北海道・本州・四国・九州・南西諸島に分布, 函館が原産。広葉樹などの樹上に生息し, 花で有られること

もある。冬季はオサ堀の時にガケなどからよく出てくる種類で、時には集団越冬することもある。

22. フ タ ツ メ ゴ ミ ム シ *Lebidia bioculata bioculata* Morawitz, 1863

【文献記録】六甲山紅葉谷 (初宿成彦: 2012).

北海道・本州・四国・九州に分布, Kumangataki(日本)原産。前種よりも少なく, 県内記録も大変に少ない。広葉樹などの樹上に生息する。堀 (2008) は樹冠に設置した FIT(衝突版トラップ) で本種が多く捕獲されたことを報告し, 本種が高い樹冠部を主な生息場所としていると推察している。灯火にも飛来, カエデの花やサワフタギの花で得られた例もある。

23. クロヘリアトキリゴミムシ *Parena nigrolineata nipponensis* Habu, 1964

【文献記録】氷上郡 (岸田剛二ほか: 1975), 出石町 (高橋匡: 1982), 神戸市鳥原, 住吉, 甲東園, 宝塚市山本 (初宿成彦: 2012).

【標本記録】1ex, 宝塚市大原野, 10-VIII-1996; 2exs, 御津町揖保川, 27-XI-2010.

本州・四国・九州に分布。アカイラガ *Phrixolepia sericea* やアメリカシロヒトリ *Hyphatria cunea* の幼虫を捕食することが知られている。広葉樹などの樹上に生息する。灯火にも飛来し, スギやヒノキの樹皮下で越冬する記録もある。タテスジゴミムシは異名。

24. アオヘリアトキリゴミムシ *Parena latecincta* (Bates, 1873)

【文献記録】Hiogo(Bates: 1873), 洲本市安乎町 (高橋寿郎: 1998), 豊岡市 (高橋匡: 1982), 川西市笹部, 東畦野 (初宿成彦: 2012).

【標本記録】1ex, 宝塚市大原野, 10-VIII-1996; 1♂, 相生市三濃山, 25-IX-2010.

北海道・本州・四国・九州に分布, 兵庫・横浜が原産。広葉樹などの樹上に生息する。ガマズミの花上で得られた例や, 灯火に飛来した記録もある。

25. ヒトツメアトキリゴミムシ *Parena monostigma* (Bates, 1873)

【文献記録】Hiogo (Bates: 1873), 氷上郡 (岸田剛二ほか: 1975), 篠山町雨石山 (林靖彦ほか: 1995), 神河町砥峰高原 (八木剛ほか: 2003), Mt. Myoko(吉武ほか: 2011), 川西市笹部 (初宿成彦: 2012).

【標本記録】1ex, 養父町ハチ高原, 1-VI-2012.

北海道・本州・四国・九州に分布, 兵庫・長崎が原産。広葉樹などの樹上に生息する。

26. ミツアナアトキリゴミムシ *Parena tripunctata* (Bates, 1873)

【文献記録】洲本市先山 (高橋寿郎: 1998), 扇ノ山 (高橋匡: 1982), 神河町砥峰高原 (八木剛ほか: 2003), 養父市福定, 宍粟市坂の谷 (初宿成彦: 2012).

【標本記録】2exs, 養父町氷ノ山スキー場, 2-VI-2007; 3♀, 宍粟市坂の谷, 4-VII-2010; 1ex, 神河町砥峰高原, 27-VI-2010.

北海道・本州・四国・九州に分布, 原産地は Tanga, Kawachi. 広葉樹などの樹上に生息する。

27. オオヨツアナアトキリゴミムシ *Parena perforata* (Bates, 1873)

【文献記録】Hiogo(Bates: 1873), 氷上郡 (岸田剛二ほか: 1975), 三原郡諭鶴羽山 (高橋寿郎: 1998), 氷ノ山 (高橋匡: 1982), 神戸市六甲山 (八木剛ほか: 2002), 神河町砥峰高原 (八木剛ほか: 2003), 宝塚市滝ノ平 (初宿成彦: 2012).

【標本記録】1ex, 八千代町, 30-VI-1997; 2exs. 洲本市先山, 2-VIII-2008.

北海道・本州・四国・九州に分布, 原産地は兵庫。クワゴマダラヒトリ *Spilarctia imparilis* の狭食性捕食者として知られており, 多くの研究報告がある (例えば, 土生ほか: 1967, 本藤: 1984)。広葉樹などの樹上に生息し, 灯火にもよく飛来する。また, 夜間にリョウブの花から得られた例もある。オオミツアナアトキリゴミムシは異名。

28. クロサヒラタアトキリゴミムシ *Parena kurosai* Habu, 1967

【文献記録】Mt. Maya(Habu: 1967), 波賀町, 27-X-1974, 遊磨正孝 (田尾美野留: 1984).

【標本記録】1♂ 1♀, 宍粟市赤西溪谷, 7-VIII-2010.

前種とよく似ているが, 上翅第3間室に3孔点を具える (前種は4孔点) ことで区別でき, 交尾器ではより明確に区別ができる。全国的にも希な種類で記録も少ない。本州と九州に分布し, 原産地は東京都高尾山附近。森 (2012) は京都府福知山市 (由良川) での採集記録と観察情報について報告し, エノキの新芽やウメ, クリの木から比較的多くの個体を採集しているが, 餌生物等の生態情報は確認できなかったとしている。他所ではクリの花から得られた記録もある。

なお, 兵庫県を原産地として *Parena wrasei* Kirschenhofer, 2006 (和名無し) が新種記載されている (記載文の原産地は Asago-gun, Okuno-Cho, Tochiara)。体長は 11mm で, 首・前胸背・上翅は暗赤褐色, 標本画像では上翅条溝がやや目立っているがクロサヒラタアトキリとよく似ている。

29. ヒラタアトキリゴミムシ *Parena cavipennis* (Bates, 1873)

【文献記録】Hiogo(Bates : 1873), 豊岡市 (高橋匡 : 1982), 多可郡中町 (松尾隆人 : 2003), 甲東園, 神戸市六甲, 川西市笹部 (初宿成彦 : 2012).

【標本記録】1ex, 安富町雪彦山, 24-XII-1994; 2 ♀, 神戸市淡河, 25-V-2013.

本州・四国・九州・南西諸島に分布, 兵庫が原産. チャドクガ *Euproctis pseudoconsersa* など鱗翅目の幼虫を捕食することが知られている (黒沢 : 1992). 広葉樹などの樹上に生息し, 灯火にも多く飛来する. ガケなどの土中で越冬個体が得られることがある.

30. オオヒラタアトキリゴミムシ *Parena laesipennis* (Bates, 1873)

【文献記録】出石町寺坂, 日高町東河内 (高橋匡 : 1982), 猪名川町内馬場 (初宿成彦 : 2012).

【標本記録】1 ♀, 安富町雪彦山, 24-XII-1994; 1 ♂, 川西市一庫ダム, 25-XI-1988; 1 ♀, 今田町立杭, 21-VI-1988.

北海道・本州・四国・九州・南西諸島に分布, 原産地は長崎. 前種とともに南方系の種類で, 各種広葉樹の樹上に生息し, 灯火にもよく飛来する. 冬季は土中で越冬する. 前種と似ているが体長がやや大きく, 前胸背や上翅はより長めとなる. 上翅条溝はほとんど目立たず点刻列となるなどの違いがある.

兵庫県におけるアトキリゴミムシ類 30 種の記録を整理して報告した. アトキリゴミムシ亜科のジュウジアトキリゴミムシ属 *Lebia* 以降の種類や分類群については, 続報の (2) で報告の予定である. なお, 参考文献については (2) の巻末にまとめて掲載する.



1. フタモンクビナガゴミムシ



2. チャバネクビナガゴミムシ



3. クロモンヒラナガゴミムシ



4. ダイミョウツブゴミムシ



5. カドツブゴミムシ



6. クロツブゴミムシ



7. トゲアトクリゴミムシ



8. ダイミョウアトクリゴミムシ



9. コキノコゴミムシ



10. ヒメキノコゴミムシ



11. ハギキノコゴミムシ



12. キノコゴミムシ



13. コヨツボシアトクリゴミムシ



14. ヤセアトクリゴミムシ



15. キボシアトクリゴミムシ



16. アオアトキリゴミムシ



17. キガシラアオアトキリ  
ゴミムシ



18. メダカアトキリゴミムシ



19. アリスアトキリゴミムシ



20. コアオアトキリゴミムシ



21. ヤホシゴミムシ



22. フタツメゴミムシ



23. クロヘリアアトキリ  
ゴミムシ



24. アオヘリアアトキリ  
ゴミムシ



25. ヒトツメアトキリ  
ゴミムシ



26. ミツアナアトキリゴミムシ



27. オオヨツアナアトキリ  
ゴミムシ



28. クロサヒラタアトキリ  
ゴミムシ



29. ヒラタアトキリゴミムシ



30. オオヒラタアトキリ  
ゴミムシ

## ハサミムシの不名誉な俗称 (Vulgar dialect names of earwigs used in Kansai Region, Japan)

高田 兼太<sup>1)</sup>

**Abstract:** In this report on the field of cultural entomology, dialect names for earwigs in Kansai region were recorded as to “*Chinpo-Basami*” and “*Chinpo-Kiri*”, which are thought to indicate “cock (“*Chinpo*” is a slung word indicating penis) cutter” or possibly “cock-shaped cutter”. Such vulgar dialect names of earwigs in Kansai Region may be derived from their cerci on their abdomen and their possible occurrence around lavatory or urinating place of the past used in Kansai Region, Japan. Henceforth, we will need to investigate (1) when this dialect words occurred, (2) whether this dialect words are still used and (3) where this dialect words has been used in Kansai region or Japan (because it is possible that this dialect words has been used out of Kansai region).

昆虫は地球上のありとあらゆる環境に存在するが、その多様な昆虫は人にとって身近な存在であり、様々なかたちで人々とかかわりをもっている。それ故に、昆虫は世界中の様々な文化事象に表象しているが(例えば, Berenbaum, 1995; 小西, 2007; Meyer-Rochow et al. 2008, Klein, 2012; 高田, 2010; 高田, 2013), このような文化事象にかかわる昆虫の影響について調べる学問を文化昆虫学という(Hogue, 1987; 三橋, 2000; 小西, 2003; 小西, 2007; 高田, 2010; 高田, 2013)。文化昆虫学においては、芸術や文学、漫画など幅広い文化事象が研究対象とされるが、昆虫がかかわる言葉、とりわけ昆虫の方言に関連することもまた文化昆虫学の研究課題としてとりあつかうことができる(Hogue, 1987)。

日本には地域ごとに多様な方言が存在し(佐々木,

2011), 特定の生き物の名前にも地域によってさまざまな呼び方がある。もちろん、それは昆虫についても例外ではなく、それぞれの種によって様々な方言が存在している(加納, 1993; 斎藤, 1993; 斎藤, 1996)。昆虫の方言には、その意味を直接に理解できなくなっているものも多いが(加納, 1993), 昆虫に対して人々が持つイメージ、あるいは昆虫と人々との接し方や接する状況など文化的な背景が多かれ少なかれ反映されていると考えられる(たとえば, Hogue, 1987; 加納, 1993; 斎藤, 1993; 斎藤, 1996)。たとえば、ショウリョウバッタは地域によっては「はたおりばった」と呼ばれるが、その由来は二本の後ろ肢をつかんでバッタの脛節と腿節の間を屈曲運動させることにより、ぎこちない体の往復運動をさせて機織りに見立てる虫遊びにちなむとされる(斎藤, 1996)。そのようなことから、人間と昆虫との



図1 「ちんぼばさみ」「ちんぼきり」ことハサミムシ A: ハマベハサミムシ *Anisolabis maritima* のオス個体 B: イソハサミムシ *Anisolabis seirokui* のメス個体

<sup>1)</sup> Kenta TAKADA 大阪市西淀川区

関係性を考える上で、方言を記載し論考することには文化昆虫学的な観点から意義があるといえる。一方で、このような多様な昆虫の方言は、マスメディアの発達や社会のグローバリズムの進行による標準語の浸透、および理科・自然科学教育・啓発の促進による標準和名の普及とともに失われていくことが予想されるため、なるべく早急に調査を進める必要がある。本報文では、関西地方におけるハサミムシの方言(俗称)について記録し、若干の考察を試みるとともに今後の課題について述べたいと思う。なお、このテーマをとりあげた理由は、関西地方におけるハサミムシの俗称が意外性に富み、大変ユニークであることによる。というのも、関西におけるハサミムシを指す方言はとても下品でかつハサミムシにとって不名誉なものなのである。

ハサミムシは、ハサミムシ目(Dermaptera)の昆虫の総称あるいは一般名称であり、通常尾端に可動する角質の鉗を持っており、これがその名前の由来になっている。このハサミムシの角質の鉗は、海外でもその名前の由来になっているようで、少なくとも英語圏ではPincerbugのように尾部の鉗にちなんだ俗称が多く存在するようである(Berenbaum, 2007)。このように人々にその鉗が特徴と認識されるハサミムシであるが、そのようなハサミムシに対して、関西では「ちんぼばさみ」「ちんぼきり」という、一般名称と同じくその鉗に由来すると考えられながらも、なんとも下品でユニークな俗称がある(図1)。私は、2009年ごろにハサミムシに対して興味を持ち始め、採集・飼育するようになったのであるが、父親(昭和20年代生まれ)に採集したハマベハサミムシを自慢げに見せたときに、幸運にも父親からその名前を教えてもらう機会に恵まれた。また、他の方との交流を通じて、関西でハサミムシが「ちんぼばさみ」「ちんぼきり」と呼ばれている(もしくは呼ばれていた)ことを確認した。おそらく、尾端の鉗が陰茎を切り取るという意味でこの「ちんぼばさみ」「ちんぼきり」という名前が当てられたのであると思うが、「陰茎」という言葉に対して、幼児言葉で主に泌尿器としての陰茎の意味合いが強いと考えられる「ちんちん」ではなく、俗語で生殖器としての陰茎の意味合いが強いと考えられる「ちんぼ」が使われていることが、何よりもこのハサミムシの俗称の下品さと言葉から想像される痛々しさを醸し出している。そして、このような陰茎を切り取られることを連想させるような環境は、おそらく陰茎が無防備な状態になりうる便所(あるいは排尿・排便にまつわる場所)であり、ハサミムシが便所に関連してよく観察される昆虫であったことを意味するのかもしれない。ただし、ハサミムシの形態が陰茎のように細長いことから、「ちんぼばさみ」「ちんぼきり」と呼ばれるようになった可能性もあるように思われ、その場合には別の説明もまた検討する必要性が

あるだろう。いずれにせよ、このような名前がハサミムシにあてられているところをみると、人々がこの昆虫に対してどちらかというとネガティブな印象をもっていたのかもしれないが、そのネガティブな感情はこの昆虫に対してどこかストレートに向けられたものではなく、むしろゆがんだ愛が投影されているようにも思える。なお本報告では、このハサミムシを指す「ちんぼばさみ」「ちんぼきり」という言葉(すなわち「ちんぼ系」方言)が、少なくとも関西では使われている(あるいは使われていた)方言(あるいは俗称)の類であるということについてのみ言及しただけであるので、この方言をめぐる課題はまだ多く残されている。たとえば、このハサミムシを指す「ちんぼ系」方言がどれくらい前にどのような由来で生まれた言葉なのか、いつ頃流行した言葉で現在もなお関西地域において使われているか、この方言が関西あるいは日本のどのくらいの範囲で使われているのか(あるいは、関西固有の方言なのかどうか)などについては明らかではないので、積極的に情報を収集する必要があると思われる。加えて、「ちんぼ系」方言以外のハサミムシを示す地域言葉についても調べる必要があり、今後はこれらとの対比も行う必要があると思われる。しかしながら、「ちんぼばさみ」や「ちんぼきり」など「ちんぼ系」方言については、この下品な名称ゆえに表立って積極的に情報提供されることも少ないと予想され、調査は難航するかもしれず、情報を収集するには工夫が必要であろう。

なお、この「ちんぼばさみ」「ちんぼきり」という「ちんぼ系」の名称は、実は他の昆虫の方言にも存在する。タガメを意味する言葉は、三重県松阪市や山口県宇部市では「ちんこばさみ」、広島県山県郡では「ちんちんばさみ」、京都府舞鶴市や岡山県浅口郡では「ちんぼきり」、宮城県名取市、滋賀県彦根市、兵庫県赤穂郡では「ちんぼばさみ」であるという(斎藤, 1996)。これら方言に対して斎藤(1996)は、タガメが人の陰茎をはさむという意味でこの「ちんぼばさみ」「ちんぼきり」という名前が当てられたのであると解釈している。このタガメの実例を考えると、タガメは水生生物であるのにもかかわらずこのような名前があてられており、関西におけるハサミムシの俗称の由来の説明として便所が関連しているという仮説はなりたたないのかもしれない。ただし、タガメにおいては、陰茎に限らず、その他の部位や生物がはさまれる対象になっていることが確認されており、その点に留意が必要である。また、タガメに関する限りでは、その「ちんぼ系」方言の分布は局所的でありながらも、きわめて広範囲におよぶことを考えると、昆虫の俗称に対して「ちんぼ」などのように下品な言葉を用いること自体は、関西文化圏に限ったことではないようであり、ハサミムシを指す「ちんぼ系」方言もまた、関西以

外の地域でも使われている俗称なのかもしれない。

ちなみに、このように下品あるいは不名誉な名称が当てられるケースは昆虫に限ったことではないようで、たとえばミズウオという魚を「げんげ」と呼ぶ地域があるようであるが、これは「下の下」という意味である。また、ギチベラという魚は、沖縄本島では「タンメータクーヤー」と呼び、「じいさんの睾丸を食べるやつ」という意味なのだそうである。

それにしても、私は「ちんぼばさみ」「ちんぼきり」という言葉がいつか「絶滅」してしまうのではないかと懸念を抱いている。ユネスコによれば、世界の言語多様性が失われつつあり、現在では世界の2500言語が消滅の危機にあり、日本に存在する多様な地域言語(方言)の中では8言語が危機言語に該当するという(佐々木, 2011)。関西弁などその他の方言についていえば、世代間の言語の継承、話者数、全人口に占める話者の割合、地域共同体の構成員が自分自身の言語に対してとっている態度などの点から、(それに加え、関西弁などの場合はテレビなどのマスメディアなどでも頻出することから)、概ね危機言語からはほど遠い存在であるものもまだ多いと思われるが、その中で使われる言葉に限って言えば、消失あるいは標準語に置き換わりつつあるものも多いようにも思われる。たとえば、関西弁では「あかん」や「ええわ」など生活に密着して使用頻度が高い言葉であれば、地域言語の言葉として保存されていくものも多いと思われるが、普通の生活でお目にかからなくなった昆虫の名称は、多くの場合現在の人々の生活にほとんど直結しておらず、言葉の使用頻度は減少している傾向にあるものと考えられる。たとえば、「兵隊虫」はツマグロハサミムシの大阪市周辺での俗称であるが、近年ツマグロカミキリモドキ自体が市内周辺であまり見られなくなったようであり(初宿, 2000)、「兵隊虫」という言葉自体が使われることも少なくなっていると考えられる。本報告文で紹介した「ちんぼばさみ」「ちんぼきり」という言葉もまた、現代の人々がハサミムシと出会うことが多くはないと思われる中で、その名前の下品さも加わって、話題にのぼる機会は少ないのではないかとと思われる。加えて、ハサミムシに限らず昆虫の名称については、マスメディアの発達や社会のグローバリズムの進行による標準語の浸透、および理科・自然科学教育・啓発の観点から標準和名の普及が進行していると思われ、方言から標準和名への置き換わりが進行している可能性もある。結果として、「ちんぼばさみ」「ちんぼきり」といったような言葉は世代間での言語の継承がおこなわれにくいと考えられ、言葉としては「絶滅の一途をたどっている」のかもしれない。方言における言葉は、地域の文化的な背景を反映しており、結果として地域の「文化資源」の基本要素であると考えられることから、以後は今回紹

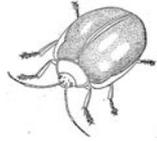
介したハサミムシの方言である「ちんぼばさみ」「ちんぼきり」にかぎらず、各地域における様々な昆虫の方言を記録し保全していくことが望ましいと考えられる。また、そのような言葉を保全するためには言葉を使う機会が必要であり、そのためにも言葉が指し示す昆虫そのものが気軽に観察できるような環境を保全していく必要があるだろう。

末筆ながら、中峰空博士(三田市有馬富士自然学習センター)には、拙者報告文原稿素案を御一読くださり、また貴重なコメントをいただいた。厚くお礼申し上げます。また、ハサミムシなどの方言について貴重な情報をご教示いただいた方々に対しても、感謝の意を表したい。

## 文 献

- Berenbaum, M. R., 1995. Bugs in the Systems. 222 pp. Addison-Wesley Publishing Company, USA.
- Berenbaum, M. R., 2007. Lend me your earwigs. *American Entomologist*, 53: 196-197.
- Hogue, C. L., 1987. Cultural entomology. *Annual Review of Entomology*, 2: 181-199.
- 加納康嗣, 1993. 鍬形虫考—げんじの方言をさぐる. 谷川 健一(編), 動植物のフォークロア II(日本民俗文化資料集成第12巻). pp. 325-339, 三一書房, 東京.
- Klein, B. A., 2012. The curious connection between insects and dreams. *Insects*, 3: 1-17.
- 小西正泰, 2003. “文化昆虫学序説”. 三橋 淳(編), 昆虫学大事典. pp. 1103-1104, 朝倉書店, 東京.
- 小西正泰, 2007. 虫と人と本と. 519 pp., 創森社, 大阪.
- Meyer-Rochow, V. B., K. Nonaka & S. Bouldidam, 2008. More feared than revered: Insects and their impact on human societies (with some specific data on the importance of entomophagy in a Laotian setting). *Entomologie heute*, 20: 3-25.
- 三橋 淳, 2000. 文化昆虫学とは. 遺伝, 54(2): 14-15.
- 斉藤慎一郎, 1993. クワガタムシの方言の謎. 谷川 健一(編), 動植物のフォークロア II(日本民俗文化資料集成第12巻). pp. 343-423, 三一書房, 東京.
- 斉藤慎一郎, 1996. 虫と遊ぶ—虫の方言誌—. 294 pp., 大修館書店, 東京.
- 佐々木冠, 2011. 日本の言語状況. 呉人恵 健一(編), 日本の危機言語 言語・方言の多様性と独自性. pp. 3-11, 北海道大学出版会, 北海道.
- 初宿成彦, 2000. なにわっ子の危険な虫あそび「兵隊虫」勝負. *Nature Study*, 46: 3-6.
- 高田兼太, 2010. 文化甲虫学: 甲虫の文化昆虫学概説. 甲虫ニュース 170: 13-18.
- 高田兼太, 2013. 文化昆虫学のススメ. *Nature Study*, 59: 14-15.

# たんぽう



## ハナノハナノミを兵庫県宝塚市で採集

牧田 習

筆者は、兵庫県下の記録が少ないと思われるハナノミ *Mordellaria hananoi* を採集したので報告する。



1ex., 兵庫県宝塚市玉瀬武田尾, 11.VII.2013

林道にあるネムノキの枯死部を網を下に受けて叩いてみると、コクワガタ *Dorcus rectus* などと共に得られた。同定をいただいた大阪市立自然史博物館の初宿成彦学芸員に厚くお礼申し上げます。

(Syu MAKITA 宝塚市)

## シロスジコガネを淡路市内で確認

澤田 佳宏

シロスジコガネ *Polyphilla albolineata* は、多くの産地で減少傾向にあり(梶, 2013), 兵庫県版レッドデータブック 2012(兵庫県農政環境部環境創造局自然環境課, 2012)ではBランクに指定される希少種である。県内の産地は限られており、淡路島内では南あわじ市でしか分布が知られていなかったが(兵庫県農政環境部環境創造局自然環境課, 2012), このたび、筆者は淡路市内の大阪湾沿岸で本種を確認したので報告する。

まず2013年6月14日午前1時30分ごろ、淡路市久留麻の国道28号線沿いにあるマンション玄関にて、メス1個体を確認した(写真1)。マンションの街灯に誘引されたものと思われる。前日から確認時までの天候は晴れであった。写真を撮影してから捕獲したが、翌朝、採集地点近隣の海浜で放した。



写真1 シロスジコガネ(メス)。2013年6月14日、淡路市久留麻



写真2 シロスジコガネ(メス)。2013年6月15日、淡路市久留麻

翌 2013 年 6 月 15 日午前 2 時ごろ, 同じマンションの玄関でメス 1 個体を再び確認し, 写真を撮影した(写真 2). 採集はしなかった. この日も日中から夜にかけて晴天であった. 写真をもとに前夜の個体と比較したところ, 前翅の模様のちがいがから, 別個体と考えられた.

本種は, 十分な広さのある砂浜とマツ林のある海岸に生息し(岡島・荒谷監修, 2012), 幼虫は砂地に生息するという(槐, 2013). 今回の確認地点から最も近い海浜は, 北東へ約 600m の場所であり, この海浜にはコウボウムギ, コウボウシバ, ハマヒルガオ, ハマボウフウなどからなる海浜植生が成立しているがマツ林は見あたらない. また, 南へ約 1200m の場所にも海浜があり, こちらには小規模ながらもクロマツ植林がみられる. 今回確認された 2 個体は街灯に誘引されたものと思われるため, 生息場所(発生場所)は特定できていない. 今後, 近隣の海浜等で観察する必要がある. 筆者はこのマンションに 2007 年より住んでいるが, シロスジコガネに気付いたのは今回がはじめてであった.

#### ○参考文献

- 槐 真史 編, 2013. 日本の昆虫 1400 ②トンボ・コウチュウ・ハチ. 文一総合出版, 319pp.  
兵庫県農政環境部環境創造局自然環境課, 2012. 兵庫県版レッドデータブック 2012(昆虫類). (財)ひょうご環境創造協会, 72pp.  
岡島秀治・荒谷邦雄 監修, 2012. 日本産コガネムシ上科標準図鑑. 学研教育出版, 444pp.

(Yoshihiro SAWADA 兵庫県立大学大学院  
緑環境景観マネジメント研究科)

#### タケウチトゲアワフキを佐用町昆虫館で撮影

向井 苑子

タケウチトゲアワフキは, シナノキ・オオバボダイジュ・ヘラノキを寄主とする特徴的な形態をもつアワフキムシです. 通常アワフキの幼虫は泡を作ってその中に隠れますが, トゲアワフキの仲間は, 泡の代わりに, 筒状の巣を作り, その中に住んでいます. 筆者は佐用町昆虫館で本種を撮影することができたので報告します.

2012 年 5 月 20 日, 2 個体撮影, 他に 3 個体目撃. 交尾中のものも.

2013 年 5 月 26 日, 1 個体撮影, 他に 2 個体目撃.

2013 年 6 月 23 日, 1 個体撮影, 他に 1 個体目撃.



写真 1 2012 年 5 月 20 日, 佐用町昆虫館



写真 2 2012 年 5 月 20 日, 佐用町昆虫館



写真 3 2013 年 5 月 26 日, 佐用町昆虫館

撮影地点は、昆虫館の寺谷川側にある植え込みです。タケウチトゲアワフキは草本植物の上に静止していました。ここにはシナノキも植栽されており、本種はここで発生しているものと思われます。

たった5ミリしかない黒い体の背中に鋭い角を持つこの虫をはじめて見たとき、カメムシ目の虫に目がない私はぞくぞくしました。なんというユニークな造形美でしょう。勇ましい戦士のように見えました。その形から、最初ツノゼミの仲間かと思ったのですが、帰宅して調べてみると、タケウチトゲアワフキというアワフキの種類だと分かりました。2013年5月、再び訪れた佐用昆虫館で、今年も見れるかなと植え込みを目を凝らして探しましたが、見つかるまでかなりの時間がかかりましたが、やっと一匹のそれを見つけた時は再会の喜びをかみしめました。角を触ってみると、かなりしっかりしており、もし突き刺さったら痛いかもしれません。この角は他の虫から身をまもるためのものなのか、それなら角は反対方向にないと武器にはならないはずと考えてしまいました。この虫がもっと大きかったら、必ずやカブトムシやクワガタにも負けられないほどの人気者になることでしょう。

(Sonoko MUKAI 大阪府交野市)

## 初めて出会った、紋流れのヤマトシジミ

清水 典子・清水 萌花

珍しいと言われている紋流れのヤマトシジミを発見したので報告します。

### ○観察した日と場所

2013年4月18日, 最高気温:22.1℃, 最低気温:13.5℃, 湿度:57%, 風向:南西, 神戸市垂水区自宅庭のカタバミが自生しているエリア

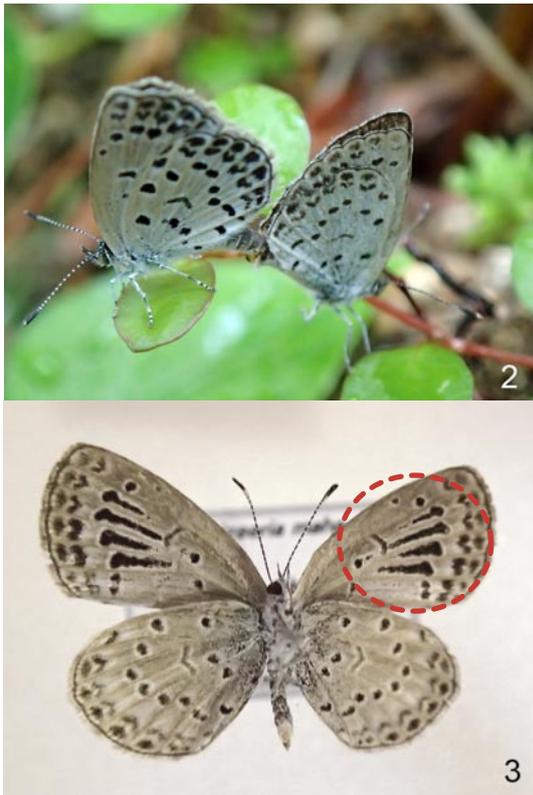
観察した週は、月曜から4日連続で最高気温が20℃を越え、最低気温も10℃以上あり、昼間は動くとき少し汗ばむような陽気でした。その前週は最高気温が10℃台どまりで最低気温は5℃という日もあり、4月のわりには肌寒い日が続いていただけに、その翌週は待ちこがれた春の気温上昇でした。

4月15日から自宅庭ではアゲハ、モンシロチョウ、ベニシジミと次々に確認することができて気を良くしていたところ、18日にヤマトシジミらしき蝶がひらひら舞っているのであわてて庭に出ました。ヤマトシジミなら初蝶かも？ということで、興奮気味にそ〜と忍び足で近づくと、テラス下のカタバミ(写真1)で翅を休めているヤマトシジミを発見。時刻はお昼過ぎだったと記憶しています。その後もつられるように、今度は別のヤマトシジミが1匹、カタバミに舞い降りてきました。



小学5年生になる娘が日頃から蝶の飼育をしているので、とにかく2匹を捕獲することにしました。まずは写真撮影を試みようとして2匹を比べると、紋に違いがあることにすぐ気が付きました。

1匹は黒い点の紋(写真2)なのに対し、もう1匹は前翅にまるで筆ペンで描いたような線状の紋があるのです。もしかしたら、別の種類の蝶かもしれないよと娘と一緒に図鑑をひたすら繰ってみました。同じような斑紋の蝶は見当たらず、謎はますます深まるばかり…。



## 昆虫館周辺で採取したミヤマカラスアゲハから産まれた黒い幼虫

清水 萌花

2013年9月8日、「こども昆虫道場」で佐用町昆虫館へ行った時、庭のヒガンバナに蜜を吸いに来ていたミヤマカラスアゲハのメスを発見し、捕まえました。今まで図鑑でしか見たことがなかったミヤマカラスアゲハは翅に緑や青いキラキラがついていて、やはりキレイだなと思いました。

さっそく家で飼育したところ、9月10日の夕方に何度もお尻を曲げるようなしぐさがみられたのですが、なかなか卵を産みません。そこで、お尻を曲げた瞬間にカラスザンショウの葉をキュッとお尻に押し付けてみました。すると、葉に卵が付いてきました。そんな方法で合計12個の卵をなんとか産ませ、9月14日には11個の卵が孵化しました。

食草は冷蔵庫に保管し、少しずつ取り替えて飼育していましたが、ふと緑色と黒色の終齢幼虫がいることに気がつきました。図鑑に載っていたのはキレイな緑色の幼虫だったので不思議に思い、蝶の先生の久保弘幸さんに写真をメールで送ると「とても珍しいですよ」と教えてくれました。

私は、同じミヤマカラスアゲハから産まれたのに、どうして黒色と緑色の幼虫に分かれるのか、またどうして黒くなるのか疑問に思いました。私にはその答えはわかりませんが、この後どんな成虫になるのか引き続き観察したいと思います。



(Moeka SHIMIZU 神戸市垂水区)

そこで、初蝶ニュースの追加情報として変わった紋のヤマトシジミを発見しましたと、こどもとむしの会の久保弘幸さんにメールしたところ、これは“紋流れ”という結構珍しい事例ですよ、と教えていただき、その時に初めて知ったという次第です。身近な空間で、おそらくまたとない紋流れに出会えたことは幸運としか言いようがありません。

ヤマトシジミと言えばどこにでもいる蝶ゆえ、あまり注目されませんが、改めて観察してみると紋は縁取りがレースのように繊細かつニュアンスもあって、地味ながら美しい蝶だと実感できます。

紋流れのヤマトシジミは捕獲してから洗濯ネットで飼育すること4日後、儚く逝ってしまいましたが、久保さんが標本にして昆虫館に展示し、多くの人に見ていただきましょうと提案してくださいました。その後、昆虫館で新たな命を吹き込まれたヤマトシジミを目にして、娘と感激しました。

娘は以前から蝶に関心があり、飼育や観察をしてきましたが、この出来事がきっかけで、ますます奥の深い蝶の世界に魅了され、もっと知りたいという気持ちを揺さぶられたのではないかと思います。

末筆ではありますが、この発表をお勧めいただきましたこと、また標本の作成、および短報を執筆するにあたりご教示いただきました久保さんに心よりお礼申し上げます。

(Noriko SHIMIZU 神戸市垂水区)

(Moeka SHIMIZU 神戸市垂水区)

## 600 日生きたカトウツケオグモ

中峰 空

筆者は採集例の少ないクモとして知られるカトウツケオグモを約 600 日間飼育したのでその記録を報告する。

2012 年 4 月 21 日, 筆者は兵庫県三田市福島兵庫県立有馬富士公園の林の生態園, 園路沿いの柵上で静止していたカトウツケオグモ成体 1 ♀を採集した (写真 1, 2012 年 4 月 29 日, 筆者撮影).



採集後, 三田市有馬富士自然学習センター内の温度変化の少ない施設の北側に位置する室内で飼育と観察を継続した. この部屋は恒常的に冷暖房を入れておらず, 室温は真夏で 28℃以下, 冬場は 5℃~ 10℃程度で維持されている. 飼育容器は透明カップを用いた. ふたにエサを投入するための穴を空けてスポンジで栓をし, 容器の底に湿度調節用のキッチンペーパーを敷いた (写真 2).



エサは 4 月から 11 月の活動期間中, 3~ 4 日に一度の頻度で体長 5mm ~ 8mm 程度のハエ・アブ類を中心に与えた. 他にヤブキリの幼虫を与えても捕食した. また, 給餌時に霧吹きで水分を与えた.

2013 年 12 月 14 日, いつもは脚を閉じてじっとしているのに少しだけ脚が開いていることに気付き, 取り出して見てみると動かなくなっていた. 腐敗, 変色, 乾燥, 硬化は見られず, 生時と同じ体色をしており脚の節も柔らかく動いたため, 死後それほど時間が経過していないと判断した. 採集した 2012 年 4 月 21 日を含めると死

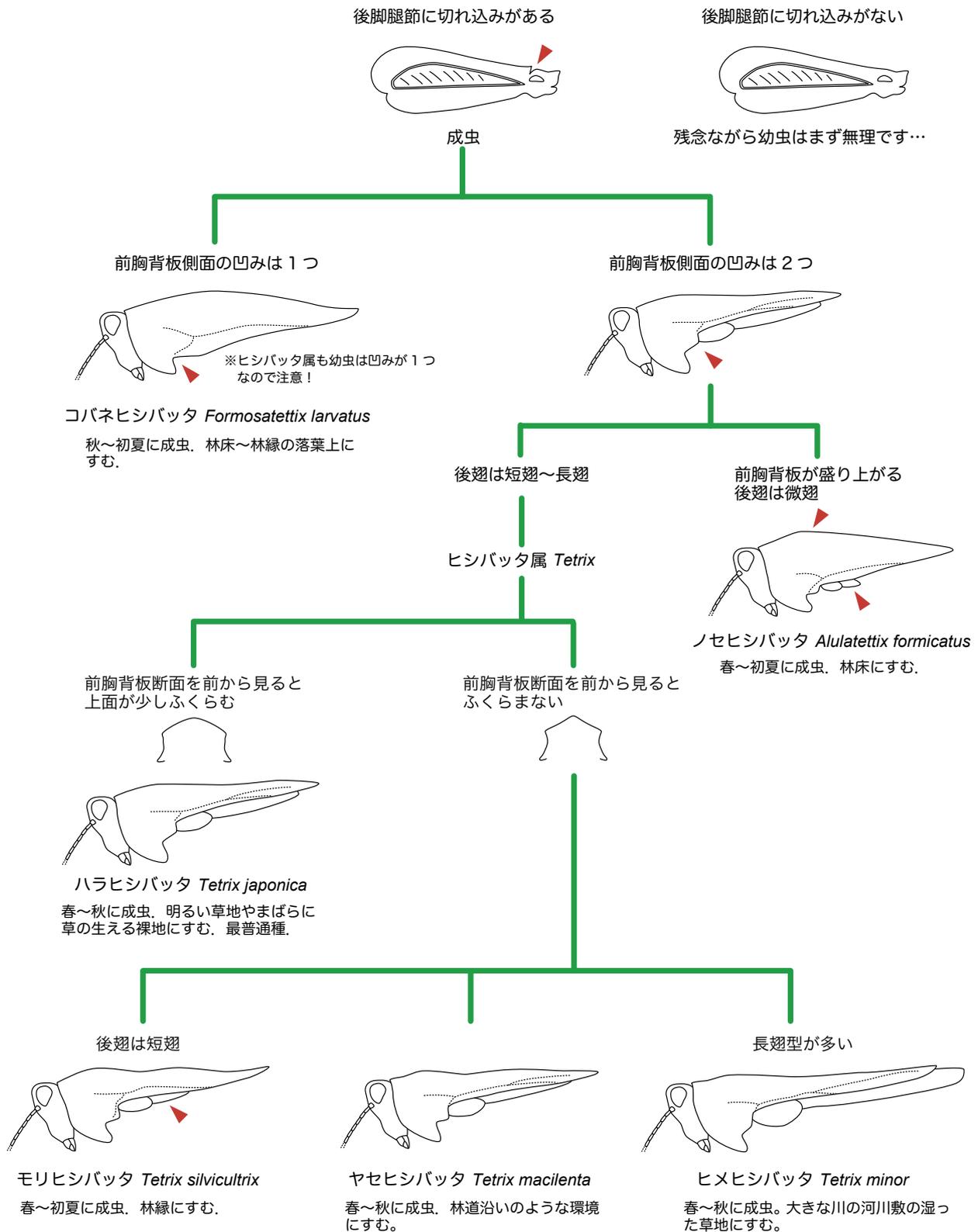
亡を確認した 2013 年 12 月 14 日まで 603 日間, 少なくとも 600 日は生存していたと考えられる.

飼育中, オスの成体を採集して飼育下での繁殖を目指していたが, これは叶えられなかった.

(Hiroshi NAKAMINE 三田市有馬富士自然学習センター)

## 付録：兵庫県の菱形のヒシバツタの検索

(※『ひょうごのぼった』図鑑に掲載予定)



※ヤセヒシバツタとヒメヒシバツタの見分け方はかなり難しいです。

付録：兵庫県の短翅フキバツタ

(※『ひょうごのばった』図鑑に掲載予定)

	分布	の尾端背面	の尾端左側面
ダイリフキバツタ <i>Callopodisma dairisama</i>		 突出しない	 尾肢は細い
ヤマトフキバツタ <i>Parapodisma setouchiensis</i>		 突出する	 尾肢は太く弱く湾曲
オマガリフキバツタ <i>Parapodisma tanbaensis</i>		 突出する	 尾肢は強く曲がる
ヒヨウセンフキバツタ <i>Parapodisma hyonosenensis hyonosenensis</i>		 突出しない	 尾肢は曲がる
キビフキバツタ <i>Parapodisma hyonosenensis kibi</i>		 突出しない	 尾肢は弱く湾曲

## きべりはむし 投稿案内

### 1. 内容

「きべりはむし」は、老若男女を問わず、昆虫に関心のある読者を対象とし、兵庫県ならびに地域の昆虫相、昆虫の採集・観察・飼育の記録や方法、昆虫学の解説、昆虫を題材とした教育や地域づくりに関する記録や方法などの、未発表の報文を掲載します。

### 2. 編集・発行

「きべりはむし」は、兵庫昆虫同好会の機関誌ではなく、独立した雑誌とし、「きべりはむし編集委員会」が編集し、「兵庫昆虫同好会」と「NPO 法人こどもとむしの会」が共同で発行します。巻号は、兵庫昆虫同好会発行の「きべりはむし」の継続とします。

### 3. 著作権

掲載報文の著作権は、「NPO 法人こどもとむしの会」に帰属するものとします。

### 4. 体裁・媒体

本誌の判型は A4 判とし、横書き 2 段組とします。本誌は、Adobe PDF 形式による電子ファイルとして出版し、データは「NPO 法人こどもとむしの会」の web サイト (<http://www.konchukan.net/kiberihamushi>) からダウンロードできるものとします。また、紙媒体による印刷物を別途製作し、希望者に時価で頒布します。

### 5. 投稿者

本誌への投稿者には特に制限を設けません。

### 6. 原稿提出時のお願い

原稿は、原則としてデジタルデータでおねがいします。以下を参考に、文字部分と、図や表の部分は別々のファイルとして提出ください。従来通りの紙原稿でも受付しますので、ふるって投稿ください。

#### 1) 文字部分

図表以外の部分と図表のキャプションは、1つのファイルとして、リッチテキスト形式 (.rtf) で保存してください。ゴシック体、イタリック体などの書体も指定ください。原稿は、一般に、表題、著者、要旨、本文、謝辞、文献で構成します。本文が数ページに及ぶ報文の場合は、本文の前に 400 字以内程度の要旨をつけることも可能です。文献、ホームページの引用は、一般的な学術雑誌の例にならってください。

#### 2) 図表

それぞれの図表ごとに別々のファイルとして作成し、jpeg、psd、pdf などの形式で保存してください。また画像データにつきましては可能な限り、高解像度での保存をお願いします。図表の幅は、1 段または 2 段分となります。原則として、単純な拡大縮小以外は行わず、そのまま印刷に供しますので、図表中の文字サイズは、刷り上がりの方の大きさを考えて適切に設定してください。また、写真のトリミングは、適切にトリミングしたものを提出してください。著者以外が作成した地図や、人物が写っている写真を用いる場合は、事前に、著作権者や本人の承諾を得ておいてください。

### 3) レイアウトの案

可能な場合は、原稿提出時に、レイアウトの大まかな案をつくっていただき、.pdf などの形式でいただけると助かります。

## 7. 原稿送付先

きべりはむし編集委員会 kiberihamushi@konchukan.net  
〒 657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1 神戸大学農学部昆虫科学研究室  
NPO 法人こどもとむしの会 事務局

## 8. 原稿の修正, 採否等

編集委員会は、内容や文言の修正を著者に求めることがあります。また趣旨に合わない原稿は掲載をお断りすることがあります。

## 9. 投稿者, 原稿内容に関する問い合わせ

個人情報保護の観点から、投稿者個人の連絡先は明記しておりません。お問い合わせ等につきましてはきべりはむし編集委員会メールアドレス kiberihamushi@konchukan.net, もしくは  
〒 657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1 神戸大学農学部昆虫科学研究室  
NPO 法人こどもとむしの会 事務局 までお願いいたします。

## 10. ISSN について

きべりはむしは第 32 巻第 2 号からオンラインジャーナルの PDF 版が正式版となりました。これに伴い、ISSN(国際標準逐次刊行物番号 :International Standard Serial Number) を取得しました。ISSN とは、雑誌などの逐次刊行物の情報を識別するための国際的なコード番号です。

・参考 web サイト

ISSN 日本センター : <http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/issn.html>

## 編集後記

- 2013年8月以降は『ひょうごのぼった』図鑑作成のため、バッタを探しに兵庫県内各地を巡りました。編集子は自称「甲虫屋」ということもあり、バッタ探しは新鮮でとても楽しいものでした。有名どころとしては但馬の草原にすむダイリフキバッタ、淡路島の海岸にすむヤマトマダラバッタあたりですが、セグロイナゴやイナゴモドキ、ハネナガフキバッタにも感動しました。
- ただ、残念ながらカワラバッタについては兵庫県内で見つけることはできませんでした。ここ20数年記録が無いという話もききます。可能性があるとするれば円山川沿いかと思われそうですが、さてどうでしょう。
- 8月から9月の河原をカワラバッタを探して歩き回る、というのはかなり厳しいと思われます。それでも2014年中にカワラバッタ調査を実施したいと考えています。
- 次号第36巻第2号は2014年3月末の発行の予定です。皆様の投稿お待ちしております。

(編集長 中峰 空)

### きべりはむし 第36巻 第1号

2013年12月25日 発行

編 集 きべりはむし編集委員会

発 行 兵庫昆虫同好会・NPO 法人こどもとむしの会

事務局 きべりはむし編集委員会 kiberihamushi@konchukan.net  
〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1 神戸大学農学部昆虫科学研究室  
NPO 法人こどもとむしの会 事務局気付

きべりはむし web サイト：<http://www.konchukan.net/kiberihamushi>

## きべりはむし 第36巻 第1号 目次

### 【報 文】

初蝶リレー 2013 とその成果	久保弘幸	1-3
みんなで調べよう セミの初鳴き, 鳴きおさめの日 - 2013 の記録-	近藤伸一	4-7
ナミテントウの斑紋タイプ (兵庫県朝来市)	近藤伸一	8-9
佐用郡佐用町 船越山域のカミキリ相の解明に向けて (5) 2012・2013 年に採集したカミキリムシ	三木 進	10-11
兵庫県のアトキリゴムシ類 (1)	森 正人	12-19
ハサミムシの不名誉な俗称	高田兼太	20-22

### 【短 報】

ハナノハナノミを兵庫県宝塚市で採集	牧田 習	23
シロスジコガネを淡路市内で確認	澤田佳宏	23-24
タケウチトゲアワフキを佐用町昆虫館で撮影	向井苑子	24-25
初めて出会った, 紋流れのヤマトシジミ	清水典子・清水萌花	25-26
昆虫館周辺で採取したミヤマカラスアゲハから産まれた黒い幼虫	清水萌花	26
600 日生きたカトウツケオグモ	中峰 空	27

### 【付 録】

兵庫県の菱形のヒシバツタの検索	中峰 空	28
兵庫県の短翅フキバツタ	中峰 空	29
投稿案内		30-31
編集後記		32